け　や　き

大正大学学芸員課程年報

第 27 号

（令和４年度）

令和５年３月

大正大学

け　や　き

大正大学学芸員課程年報

第 27 号

けやき　大正大学学芸員課程年報　第27号　目次

小林　伸二 先生「博物館放浪記」 …… 1

学外実習のレポート …… 3

茨城県立歴史館	江原知華	茨城県立歴史館での実習をおえて
茨城県立歴史館	吉田哲	博物館館園実習を終えて
江戸東京博物館	髙橋未羽	江戸東京博物館での実習を終えて
橿原市昆虫館	岩元暖	昆虫と過ごす５日間
葛飾区郷土と天文の博物館	猪俣大志	館園実習を終えて
神奈川県立近代美術館	柴田彩夏	実習体験記―現状と役割を知る―
神奈川県立歴史博物館	吉田京	博物館実習を終えて
上里町立郷土資料館	青沼純矢	上里町立郷土資料館での実習
観蔵院曼荼羅美術館	勝浦理彩	仏教系美術館での実習体験
観蔵院曼荼羅美術館	田中七海	曼荼羅美術館での実習を終えて
観蔵院曼荼羅美術館	西脇小笑	博物館実習を終えて
観蔵院曼荼羅美術館	平野若菜	曼荼羅美術館での実習をおえて
北区飛鳥山博物館	鈴木創大	博物館実習を終えて
旧坂東家住宅　見沼くらしっく館	小林厚紀	実習を通して学ぶ学芸員の仕事
清瀬市郷土博物館	光吉佑紀	実習報告―展示実習を中心に―
久喜市立郷土資料館	上本葵	博物館実習を終えて
群馬県立歴史博物館	井口喜景	館園実習を振り返って
群馬県立歴史博物館	川島希美	博物館実習を終えて
江東区中川船番所資料館	大木颯介	学外実習を受けて
江東区芭蕉記念館	萩原彩紀	博物館実習を通して
国立科学博物館	髙木瞳	普通と一味違う実習
埼玉県立さきたま史跡の博物館	大吉榛奈	博物館実習を終えて
埼玉県立さきたま史跡の博物館	中村聡美	博物館実習を終えて
埼玉県立歴史と民俗の博物館	後藤啓太	博物館実習を終えて
埼玉県立歴史と民俗の博物館	島村聡美	博物館実習についてのレポート
埼玉県立歴史と民俗の博物館	星野楓	博物館学芸員に求められるもの
さいたま市立博物館	小田淳朗	館園実習を終えて
相模原市立博物館	大日方悠人	実習を通して感じた学芸員の苦労
渋谷区立松濤美術館	八重樫莉音	館園実習を終えて
市立市川考古博物館	北村隆	博物館実習を終えて
市立市川歴史博物館	山中光太郎	市川歴史博物館の実習を受けて
進化生物学研究所	徳重陽子	学芸員の資質／観察眼／変化対応
杉並区立郷土博物館	遠藤健太	博物館実習を終えて
草加市立歴史民俗資料館	齋藤里奈	博物館実習を通して
千葉県立房総のむら	内藤亜美	博物館実習を終えて

千葉市立加曽利貝塚博物館	雨　宮　奈央佳	博物館実習を終えて
中京大学スポーツミュージアム	柴　田　真　希	博物館実習について
土浦市立博物館、上高津貝塚ふるさと歴史の広場	石　川　英　明	実習を終えて
土浦市立博物館、上高津貝塚ふるさと歴史の広場	曾我尾　　渉	博物館実習を終えて
土浦市立博物館、上高津貝塚ふるさと歴史の広場	藤　井　諒　子	博物館実習を終えて
天理大学附属天理参考館	清　水　悠利加	博物館実習を終えて
栃木県立博物館	駒　場　弥　夢	博物館実習での経験
栃木県立博物館	舘　野　隼　弥	博物館実習を終えて
栃木県立博物館	野　口　大　樹	博物館実習を終えて
栃木県立博物館	山　村　　楓	栃木県立博物館で実習を受けて
成田山霊光館	田　中　　颯	博物館実習を終えて
成田山霊光館	堀　越　彩　奈	成田山霊光館での実習を終えて
日光山輪王寺宝物殿	宇都木　梨　子	輪王寺宝物殿での実習を終えて
日光山輪王寺宝物殿	小　林　蕗　乃	博物館実習での学び
日光山輪王寺宝物殿	權　田　海　斗	輪王寺宝物殿での実習をおえて
日光山輪王寺宝物殿	髙　野　真　由	輪王寺宝物殿で実習を行って
日光山輪王寺宝物殿	田　中　秀　明	輪王寺宝物殿で得られた経験
日本民藝館	葛　西　祐　衣	博物館実習を終えて
沼津市明治史料館	杉　山　未　峰	実習を終えて
箱根町立郷土資料館	田　中　景　子	箱根郷土資料館での実習について
長谷寺宗宝蔵	小板橋　郁　美	長谷寺での実習を終えて
東村山ふるさと歴史館、八国山たいけんの里	栗　原　七　海	博物館実習を終えて
日立市郷土博物館	財　津　裕　希	博物館実習を終えて
日野市郷土資料館	藤　代　嵩　也	机上では学べなかったこと
平等院ミュージアム鳳翔館	川　名　美　緒	博物館実習を終えて
平塚市博物館	芦　川　昇　瑚	平塚市博物館の実習について
富士見市立水子貝塚資料館	末　國　結　衣	博物館実習を終えて
船橋市郷土資料館	浅　利　美渚子	船橋市郷土資料館の実習を終えて
船橋市飛ノ台史跡公園博物館	鈴　木　美　咲	飛ノ台史跡公園博物館での実習
船橋市飛ノ台史跡公園博物館	髙　橋　万梨愛	博物館実習を終えて
松戸市立博物館	篠　原　聖　奈	博物館実習を終えて
武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館	佐　藤　悠　成	博物館実習を通して
茂原市立美術館・郷土資料館	中　村　絵美理	速水御舟との出会い
茂原市立美術館・郷土資料館	吉　野　真　央	博物館実習を終えて
八潮市立資料館	村　田　和　駿	八潮市立資料館の博物館実習記録
八潮市立資料館	山　﨑　大　輝	学外実習を受けて　八潮市立資料館
山梨県立博物館	青　山　大　悟	館園実習を終えて
山ノ内町立志賀高原ロマン美術館	諏　訪　絢　香	志賀高原ロマン美術館での実習
遊行寺宝物館	伊　藤　春　智	実習を終えて

遊行寺宝物館　久保田　夏　紀　遊行寺宝物館での実習を終えて
遊行寺宝物館　永　島　史　奈　遊行寺宝物館での学びについて
遊行寺宝物館　横　戸　　玄　遊行寺宝物館での実習を終えて

博物館実習の授業について …… 42
伊藤　宏之先生「博物館実習Ⅱを担当して」
園部　華与「博物館実習のティーチングアシスタントを担当して」
宮内　澄羽「博物館実習のTAを担当して」

卒業生通信 …… 47
髙野　愛氏「文化財に関わる仕事に就くということ」

編集スタッフレポート …… 49
坂本　圭「令和４年度　学芸員課程業務を担当して」

受贈・購入図書目録 …… 50
令和４年度学芸員課程開講科目一覧 …… 52
令和４年度館園実習 実習生一覧 …… 54

編集後記 …… 57

『けやき』～誌名の由来～

小誌が大きく育つように、武蔵野の大地にどっしりと根をおろし、
大空に梢を広げるけやきにあやかって付けました。

博物館放浪記

小　林　伸　二

地方には様々な博物館があって、そこには新たな発見がある。その土地ならではの特色あるモノ、あるいはヒトにちなんだ、あるいは独自の企画展などを通じて、知の世界へと誘ってくれる。令和元年、九州国立博物館で開催の特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」は、足利将軍を中心とした国宝・重要文化財などモノの多さに圧倒され感動を覚えた。企画に携わった学芸員のみなさんの思いが、伝わるようであった。やはり実物を見ることの意義は大きく、ホンモノの力と展示力が重なり合って、はじめてこうした思いにいたるのであろう。

ホンモノを見ることで忘れられない体験がある。みなさんも一度は歴史の教科書で見たことのある、志賀島の金印、日中関係の幕開けを象徴する、江戸時代に出土したとされる金色に輝く金印。わたしは、後漢時代に倭国にもたらされた金印が、近世に時を経て偶然に発見させたことに違和感を持ち、疑いをもっていた。あるとき、それならばホンモノを見てみようと、福岡市博物館を訪れた。入り口のすぐ近くに、それは鎮座していた。小さく、その輝きを放って。見た瞬間、なぜか「これはホンモノだ」と感じた。入ってすぐに、まさかあるとは実のところ思っていなかった。どうだ、ホンモノはこういうモノなのだと、いわんばかりの、展示に圧倒された。博物館の、学芸員の、まっすぐな信念に感心させられたかのようであった。

今度は、邪馬台国、卑弥呼に関する博物館での体験である。古代史最大のロマンに関して近年、大和の纒向遺跡が注目されているが、このことを確かめようと、奈良県橿原市の橿原考古学研究所附属博物館を訪れた。対応してくれた担当者に、同遺跡のことをあれこれ質問した。わたしとしては、邪馬台国、卑弥呼と纒向遺跡の関係性を聞き出したかった。しかし、担当者の口からは、ついに邪馬台国、卑弥呼というワードはでなかった。この対応にまた、すごく感動した。学説として確立していない、可能性の段階での極めて慎重な説明、考古学に対する真摯な態度を思い知らされたようであった。信頼のおけるとはこういうことなのであろう。研究の重み、モノを扱う姿勢は、学ぶところが多い。

京都には研究のため度々出かける。今度は近年の話だが、京都の岡崎に藤井斉成会有鄰館という博物館が存在する。開館日が限られているため、なかなか行く機会に恵まれず、ようやく訪れることができたのは昨年のことであった。中国の文物を中心とした東洋美術品の所蔵が高く評価され、青銅器や書画、さらには国宝の唐代の写本『春秋経伝集解』残巻は特に有名である。このような知識を持っていたのだが、思わぬモノに遭遇した。科挙のための「四書五経」を書き込んだカンニング用の下着、これは何度も画像を見ていたが、まさかホンモノがここにあるとは思わなかった。ささやかな感動である。こうしたなか、当館のコレクションである清

朝期の文物、なかでもイスに興味を持ち、しばらく立ち止まって見ていると、突然、監視員から「座ってみますか」と話しかけられた。「ええ、いいのですか」と言いながら、すでに座っていた。清朝の皇帝になった気がした。思いがけない喜びであった。ホンモノを実感させたいという博物館の姿勢なのかもしれないが、えらく感心させられた。

博物館はやはりいい。そこで働くヒト、ホンモノを実感させる空間、何よりも来館者に感動を与える展示、いつまでもこの文化は存在しつづけてほしい。多くの人に知という恵みをもたらす、博物館の仕事は尊いと思う。また、博物館を放浪したい。

（本学学長補佐）

学外実習のレポート

今年度も本学の学生が各地の博物館、美術館、寺院で大変お世話になりました。ここに学生の実習体験談を掲載します。読んでみると、学生が実習で多くのことを経験し、学んだのがわかります。学生の指導を担当してくださいました皆様には深く御礼申し上げます。

茨城県立歴史館での実習をおえて
茨城県立歴史館

江 原 知 華

私が博物館実習にてお世話になったのは茨城県立歴史館である。実習を行った６日間において、実に多くのことを勉強することができたと感じている。

茨城県立歴史館は、博物館と文書館の２つの機能を兼ね備えた施設であり、歴史系展示のあり方や行政資料の取り扱い等、歴史館ならではの役割分担やその意義についての知識も得ることができた。また、様々な種類の資料を扱わせてもらうことができ、それらの展示においての工夫や具体的な活用方法を実際に学んだ。

実習の中で、歴史館においてはどの課においても教育普及活動に関わることになると教わったことも印象に残っている。この言葉は、まさに教育の場において歴史館が大きな役割を果たしていることを表していると感じた。

実習の後半においては、実際に展示室内にてグループごとに展示実習を行い、限られた空間において貴重な資料を扱わねばならない難しさと緊張を実感した。また、狭い空間で見やすさを優先し、来館者に伝わりやすい展示を行うためにはコミュニケーションを取ることも重要なのだと改めて感じた。

実習全体で現場の空気感や具体例を通し、現実的な学芸員の役割について学ぶことができた。知識、実践、どちらにおいても大きな学びを得ることができ、改めて学芸員としての仕事の素晴らしさを確認し、将来への選択肢が大きく広がったと感じている。

博物館館園実習を終えて
茨城県立歴史館

吉田　哲

私は、茨城県立歴史館で７月26日～31日までの６日間、館園実習をさせていただきました。実習の参加者は15人で、主に茨城県の大学の実習生が中心で、一緒に体験することができ、良い交流の場になりました。

茨城県立歴史館は、館名の通り他の県立博物館とは違い、県の博物館機能に加えて公文書館の機能を持っているため、博物館ではなく歴史館と呼ばれています。そのため、実習では大学で学んだ巻子や掛け軸などに加えて茨城県の業務で保存すべき公文書の保存業務なども見ることができ、勉強になりました。実習内容も歴史館の運営、教育普及、特別展の企画立案や、古文書の資料保存の方法、IPM、考古資料の調書作成など、博物館の多岐にわたる業務について実習で学ぶことができ、貴重な体験をすることができました。

私が、実習で特に印象に残ったことは、グループワークや教育普及、SNS を用いた情報発信など、相手に伝える能力の重要性です。また、展示の方法も資料はもちろんのこと、時代に合わせて変化し対応する必要があることを学びました。また、大学の授業では扱わなかった刀の取り扱いや、考古資料、民俗資料の取り扱いなどを学ぶことができたので良かったです。

今回学び経験したことは、今後の社会生活に活かしていきたいと考えています。６日間ご指導ありがとうございました。

江戸東京博物館での実習を終えて
江戸東京博物館

髙橋未羽

私は、東京都江戸東京博物館での実習を受けました。今回の実習館は、本館の工事に伴い小金井公園内にある江戸東京たてもの園に変更になりました。

４日目から最終日にかけて行われた展示実習では、目覚まし時計を担当することになりました。この実習において私は、キャプションを大きく作ってしまったため配置に苦戦し、なおかつ元々あった光源を意識して展示することができませんでした。悔しいと同時に、館の状況に応じた博物館展示を行うことの大変さを実感しました。

次に、展示企画では、目覚まし時計を用いて時計にまみれた展示を企画しました。この実習内容は楽しいと感じた反面、実際に企画することは様々な発想が必要であることがわかりました。特に料金や教育的意義のある展示であるかなどを考慮しなければならない点が難しく感じました。

また季節ごとにたてもの園で行う企画・ポスター作成を行うグループワークにも参加しました。私の班では夏のイベントを企画しましたが、企画の考案に時間がかかり、ポスター作成に十分な時間を割けなかったことが心残りでした。ですが、そこからチームや時間など様々な物事に対して、その場に適した対応を行う能力の大切さを学びました。

この実習で学んだことは、博物館だけでなく、大学や仕事などにも活かせるよい経験になりました。

昆虫と過ごす５日間
橿原市昆虫館

岩元　暖

私は、８月18日から22日までの５日間、奈良県橿原市にある橿原市昆虫館で実習を行いました。橿原市昆虫館は、1989年10月に設立され、約10種類500頭の蝶を放している温室で有名な自然博物館です。実習先として昆虫館を選んだ理由は、昔から虫が大好きだったので虫の飼育やその環境について学べる所で実習したいと思ったことと、自然と共に暮らす「生き物」と「人」との繋がりの重要性を学びたいと思ったからです。

実習内容は、１日目は館内説明の後に香久山公園と南山でセミの抜け殻集めをし、２日目は生物飼育、３日目は香久山公園と南山町で昆虫採集と企画展立案、４日目はネジレバネとノミの点描画作成と来館者誘導、最終日の５日目は標本作成と企画展発表を行いました。虫の飼育に関しては蝶、カブトムシ、クワガタの幼虫のケース移しを手伝い、成虫の餌やりなどをしました。企画展は「同じ世界を見てみよう！虫の目線展」というタイトルで、人間は虫から見てどれくらい大きいのかを体感してもらうコーナーなどを作り、小さな虫の気持ちを理解するという目的で企画しました。その他の点描画や標本作成などは、技術的に求められるところもありましたが、丁寧に作業できたと思います。

この実習を通して、虫と人が共存する環境を守ることは大事だと思うと同時に、虫に対する関心がさらに高まりました。

館園実習を終えて
葛飾区郷土と天文の博物館

猪俣大志

葛飾区郷土と天文の博物館は、東京都葛飾区にある指定博物館である。この博物館では葛飾区で収集された考古資料から近代までの幅広い資料を保存・保管し運営をしている。

実習期間が２日という短いスパンではあったが、この実習で様々なことを学ぶことができた。その中でも印象に残っていることは、生涯学習としての施設の在り方についてだった。博物館概論にて博物館は研究、資料の保存保管をする調査研究をする面の他に、それらを活用し、普及する教育的側面があると教わった。その２つの側面において、教育普及活動に頗る力を注いでいたのが当館だった。地域に根差した生涯教育機関として、先の展示、プラネタリウムに加え、近隣の方々と連携を取り、稲刈りや芋ほり等の体験活動を行っている。そして、これらのイベントは抽選せざるを得ない程の盛況で、それだけ近隣の方々はこの博物館に注目している。

学芸員は雑芸員と揶揄されることもあるが、博物館を研究的側面ばかりでなく、生涯教育機関と捉えると、専門性を持った学芸員は不可欠であり、それを体現するための館の設置理念の重要さを実習で実感した。まだ別途学内での実習は残っているが、ここで学んだ様々なことを活かしていきたい。

実習体験記―現状と役割を知る―
神奈川県立近代美術館

柴田彩夏

多くの所属学芸員の方に貴重な話や体験を聞かせていただくことができた。私が経験した中で印象に残った点は二つある。

第一に、博物館の教育普及機関としての役割のリアルな様子を知ることができたことだ。実習の中で、当美術館が例年実施しているワークショップを他の参加者の方々とともに体験する機会があった。美術館敷地内に設置された立体作品を見学し、感じたことを紙粘土の作品として作ってみようという内容だった。参加者は小学校低学年が中心であったが、製作後には自身がどのようなことを思い、作品を作ったのかまで各自で発表を行う時間が設けられていた。作品を鑑賞するだけでなく、さらに受け手である子どもたちの想像力を刺激する体験として、教育の一環を担っている時間であると感じた。

第二に、文化財の保存・修復についてより間近で経験させていただいたことだ。実習では、収蔵庫内の清掃やアーカイブ作成、作品の展示方法等さまざまな面から作品に触れる機会があった。収蔵庫内の温湿度管理だけでなく、当美術館は海に面した立地の関係上、輸送トラックから収蔵庫に作品を移動する時には海風を美術館内に持ち込まないために、二度シャッターで隔離し空気の入れ替えを行う方式をとっていることを教わった。作品に対する配慮や状態を維持したまま、今後に残していく技術を体感した。

博物館実習を終えて
神奈川県立歴史博物館

吉田　京

私は、９月７日～９日、14日～16日の６日間、神奈川県立歴史博物館で実習をさせていただいた。各日複数の分野の実習を行い、全て実物の資料を取り扱った。それらは館所有の土器や寄贈された絵馬などさまざまであった。１日目と２日目は座学を中心に行い、３日目から実際に資料を取り扱った。

座学では資料保存・保存環境に関する内容が印象に残った。博物館に勤める以上、リスクを発見する力を養う必要がある。リスクは、文化財の周りだけでなく来館者が通る通路などさまざまな場所にあるため、館内の隅々まで探す必要がある。また、リスクを見つけた後の対処方法も考える必要がある。文化財を守ることを第一として、来館者や博物館員を守ることも念頭に置く必要があると感じた。

資料の取り扱いでは、考古の実習が印象に残った。本物の土器を使用し梱包とテグス掛けを行った。梱包は、借用させていただいた館に対して、返却する際に文化財を安全に扱っているという意思表示にもなることを知った。テグス掛けでは、テグスのテンション調整が大変だった。転倒防止のための措置であるが、きつすぎても土器に損傷を与える恐れがある。テグスのテンションを確かめながら作業する必要がある。

最後に、実習時のご指導や、本物の資料を扱わせていただいたこと、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

上里町立郷土資料館での実習
上里町立郷土資料館

青 沼 純 矢

私は、上里町立郷土資料館で実習をさせていただいた。実習生は３人で、初日は主にガイダンスと施設案内が行われ、文化財管理センターや郷土資料館の展示、民俗資料が収蔵されている倉庫や郷土資料館が管轄する男女共同参画推進センターで西崎キクに関する展示等を案内していただいた。

２日目、３日目は郷土資料館内部にある指定文化財のパネル写真の展示替え、長幡部神社北裏遺跡の土器展示、中世の武士である安保、勅使河原、武田の各氏族の系図作成を３人に任され、取り組んだ。私は長幡部神社北裏遺跡の陶磁器、土師器、灰釉陶器等の展示を担当することとなり、キャプションから構成、展示物の選定等に関わることができたとともに、職員の方にアドバイスもいただき、最終的に完成させることができた。展示の難しさを体感するとともに、やりがいも同時に感じることができた。

最終日は、展示替えの最終確認と、発掘報告書に使用するための遺構図面版下の作成をスタッフの方と共に行い、実習は終了となった。展示替えという学芸員の仕事の一つを体験できたとともに、職員の方の電話対応や窓口対応等、普段の仕事も間近で見ることができ、学芸員という仕事、１日の仕事の流れを少し体感することができた。改めて、今回の実習を通じて、様々な素晴らしい体験ができたと考えている。

仏教系美術館での実習体験
観蔵院曼荼羅美術館

勝 浦 理 彩

学内募集で推薦をいただき、観蔵院曼荼羅美術館でお世話になると決まってから、もっと仏教について学んでおくべきだったと後悔したところから、学芸員実習が始まりました。特別展中の接客対応で足を引っ張らないよう予習に力を入れました。いただいた資料を読み込み、来館者からの質問の予測と回答の準備を行い、備えました。

集合時間は10時（特別展期間中は９時半）でしたが、過去には早く来て境内の掃き掃除をしていた人もいたとのことで、感銘を受けました。庭の落ち葉の掃除はとても大変でしたが、入り口が美しく整えられ気持ちの良い風景になり、達成感を得られました。

１日目は、美術館内展示（曼荼羅、悉曇、錐金など）の説明と、写仏の体験をしました。

２日目、３日目は、特別展へ向けての会場設営を行いました。キャプションを作り、常設展をほぼ全て片付け、掃除をし、展示物が映えるように壁に白い布を貼り、特別展仕様に設置をしました。細かい作業よりも肉体労働が多く、体力勝負となりました。特に、掛け軸の扱いは博物館実習Ⅱの授業で何度も確認をしたため、活かせてよかったです。

１日休息日を挟み、４日目、５日目、６日目は特別展当日の担当業務を行いました。

７日目、８日目は、特別展から常設展へ戻す作業を行いました。

学芸員の仕事のリアルを体験でき、成長できた８日間だったと感じています。

曼荼羅美術館での実習を終えて
観蔵院曼荼羅美術館

田 中 七 海

実習は、９月28日から10月５日の８日間（予備日の31日を除く）で行われました。実習生は６名と比較的少なめの人数でした。

初日は、館についての説明や曼荼羅についての説明を受け、館内見学をした後、写仏を行いました。29日、30日は１日から３日に開催される特別展の準備を行い、１日から３日は特別展のお手伝い、４日、５日は特別展の片付けを行いました。特別展の準備では、常設展の作品を取り外し、特別展で展示する作品への入れ替えや、背景用の布の設置、展示用の台の設置、キャプション作りなどを行いました。キャプション作りは、授業でもやったことがなく初めての経験だったため、とても良い経験ができたと思います。展示替えは準備片付けともに想像以上に力仕事だったため、実習時間外の休息や早めの睡眠も作業を効率良くするために必要だと感じました。

観蔵院曼荼羅美術館は、お寺と美術館がつながっており、他の美術館や博物館とは一味違う印象を受けました。そのおかげもあり、お寺の行事である萬燈会のお手伝いや見学もさせていただき、とても素敵なものが見られたと同時に、学芸員の多様な仕事について勉強させていただきました。また、館長、学芸員の方々をはじめとして、館の皆様がとても優しくご指導くださり、アットホームな雰囲気の中、とても実りある実習になりました。

博物館実習を終えて
観蔵院曼荼羅美術館

西 脇 小 笑

私は10月28日から11月５日の８日間、観蔵院曼荼羅美術館の博物館実習に参加させていただきました。

この博物館実習では、作品展示やキャプション作りといった特別展の準備、来館者の応対や案内、片付けなど大学の授業では得ることのできない実際の現場を学ぶことができました。

初日は展示作品についての知識を学び、写経を体験しました。２日目と３日目の特別展の準備では、掛軸の取り扱いが印象に残りました。通常の掛軸は、大学の授業で何回も練習したためすんなりと行うことができたのですが、掛緒が２本ある大きいサイズの掛軸は扱ったことがなかったのと、二人で息を合わせて取り扱う必要があったので、難しく感じました。

特別展中では、展示室内やミュージアムショップでの応対や受付での案内を行いましたが来館者に緊張してしまい、思うように声が出せず自分の未熟さを認識しました。来館者からは両部曼荼羅について様々な質問をされ、学芸員に必要な知識の多さを実感しました。また、出展者の方とお話しして作品に対する作者の意図や額装一つで印象が変わることなど、鑑賞する側からは推し量ることしかできない作者の考えを学ぶことができました。

実習を通じて改めて学芸員の仕事の幅広さと必要な知識の豊富さ、作品に対する作者の思いや自分の未熟な部分を認識できて今後の人生に活かせる良い経験となりました。

曼荼羅美術館での実習をおえて
観蔵院曼荼羅美術館

平野若菜

10月31日から11月５日の８日間に、東京都練馬区にある観蔵院曼荼羅美術館で実習を行いました。１日目の午前中は、オリエンテーションとして博物館や曼荼羅、悉曇などについての説明をいただきました。午後には染川英輔画伯の下絵で写仏を行い、とても貴重な体験となりました。２・３日目は「開館20周年記念　曼荼羅へのバリエーション　第28回　仏画・悉曇・截金特別展」の準備を行いました。会場設営から始まり、掛け軸の取り扱いや照明の調節、キャプション作りなどを体験しました。掛け軸の取り扱いについては実物の作品で行ったことで、より上手になったと実感しました。４～６日目は、特別展のスタッフとして来館者対応や会場の監視などを行いました。それぞれの日に「大般若経転読会」「演奏会：和楽に聴く仏の心」「萬燈会」が行われたため、たくさんの方がご来館されました。萬燈会とは、懺悔滅罪のために一万の灯火を点じて仏や菩薩に供養する法会のことです。境内に小燈籠を並べた景色は、非常にきれいで今も目に焼き付いています。７・８日目は特別展の撤収を行いました。設営にかかった時間よりも短くなっていたため、実習での自身の成長を感じました。

今回の実習では、学芸員として様々な業務を体験しました。自分は学芸員志望なので、実際に働くことができた際には今回の経験を活かしたいと思います。

博物館実習を終えて
北区飛鳥山博物館

鈴木創大

私は、北区飛鳥山博物館で８月９日（火）から８月21日（日）のうち、15日（月）を除く12日間の実習をさせていただきました。夏休み中の実習ということで、期間中は平日も含めて児童・学生向けの体験講座を多く開催しており、講座の補助や受付を通して参加者の方々と直接関わることができました。講座の補助は、参加者の方の活動にどこまで踏み込んでサポートするかという判断が難しく、コミュニケーション能力と経験が求められると感じました。個人的には手応えはなかったものの、アンケートで「楽しかった」という声が多く、ホッとした記憶があります。

実習中に最も時間を割いた活動は、展示資料紹介パネルの製作でした。実習生が気になった展示資料を紹介するというコンセプトで、資料の調査を行って紹介文を作成しました。限られた文字数の中で、興味を持った・面白いと思ったポイントを簡潔にまとめることに苦戦しましたが、何度も修正を加えて納得のできるパネルを製作することができました。

この他にも、実際に館で収蔵されている資料を扱う機会もあり、こうしたモノの扱い、講座ではヒトと関わり、ヒトとモノを繋ぐ資料紹介文を作成するというように様々なことを経験することができました。とても充実した12日間でした。ご指導いただき、ありがとうございました。

実習を通して学ぶ学芸員の仕事
旧坂東家住宅　見沼くらしっく館

小 林 厚 紀

私は、博物館の現場で実習する以前、大学で学芸員の講義を受ける中で、学芸員の仕事について理解することが難しいと感じていました。理由として、大学で学ぶ以前の私は、学芸員の仕事を全くと言ってよいほど知りませんでした。そのため、学芸員について学んでいくと多くの知識や技術が求められる大変な仕事であり、どこまでが学芸員の仕事なのか、その領域がわからなくなっていました。

そうした状況の中で、私は実習に向かいましたが､実習をさせていただいた見沼くらしっく館は、博物館のなかでも特殊な館でした。旧坂東家の住宅そのものを活かした博物館であり、実習内容としては竹を加工して竹とんぼや竹の貯金箱を作る、囲炉裏の火入れをおこなう、盆棚飾りをするなど他では体験できない内容ばかりでした。竹もまだ生えているものを切るところから行うことや、火入れに使う薪を割ることもありました。そうした体験は、これまで学んできた学芸員の仕事からは全く想像ができませんでした。

私は、この実習をできたことが自分の大きな財産になったと思います。実習を通して、学芸員という仕事の幅の広さについて実感することができ、普段の生活ではすることのないさまざまな体験もすることができました。今後も博物館について、自ら学ぶ姿勢を持っていきたいと思います。

実習報告ー展示実習を中心にー
清瀬市郷土博物館

光 吉 佑 紀

今回、2022年８月４日から14日にかけて実習に参加した。実習では、主に座学、古文書整理・民具整理、展示実習が行われた。座学では、博物館の概要や、展示実習に向けての講座が行われた。古文書整理では近現代の典籍を、民具整理では復元民具をそれぞれ台帳に記入し整理した。民具整理では、民具のクリーニングも行った。展示実習では、２つの展示ケースを用いて、清瀬市内の遺跡を紹介する展示を実施した。展示の企画立案では、ターゲットを小中学生を中心とした初学者とし、縄文時代の清瀬の遺跡を知ってもらうとともに、市境を流れる柳瀬川や湧水点と遺跡の関連性を理解してもらうことを目的とした。

展示資料は市内の東、西、中央に位置する３遺跡から土器や石器を選定した。企画立案時に、土器の展示は地味でつまらないと指摘されたことがあるとの意見が出た。そのため、ビジュアル的に迫力のある大きな土器を選ぶほか、竪穴住居のジオラマなどを用いて、来館者が縄文時代の生活を示し土器や石器がどのように利用されたか、イメージしやすくした。

今回の実習では、他の実習生とのコミュニケーションがよく取れていた事で､目的に沿った統一感のある展示が実現できたと感じた。一方で、キャプションの内容がターゲットとした初学者以外に対して、簡単すぎたのではないかといった点が課題だと思った。

博物館実習を終えて
久喜市立郷土資料館

上本　葵

久喜市立郷土資料館での８日間の実習では、主に企画展示やワークショップ、他の施設見学などを行ったが、それは私にとって特別な経験となった。貴重な資料を間近で見ることができ、学芸員の方々の仕事を具体的に知ることができた。その中で、特にコミュニケーションについて深く学び、成長できたと感じた。これは初めに行った「企画展示」で特に感じたことである。

企画展示では、実習生同士でどの資料をどのように展示するかを決め、パネル作りや資料を展示する作業を行った。

実際に作業に取り掛かると、話し合う場面が増えていき、時には意見がぶつかることもあった。また、自分がどのような展示を実現させたいかを他の実習生に伝える必要もあった。多くの展示資料の候補がある中で、自分の意見を詳しく伝える必要があり、そこで私はコミュニケーションの大切さを学ぶことができた。また、自分がやりたいこと、展示したいものを言葉にし、伝えることが大切であると担当の学芸員の方にアドバイスもいただいた。このことからも、コミュニケーションがいかに重要であるか気づくことができた。

実習を通して、学芸員は資料に関する知識や展示の技術だけではなく、コミュニケーション能力も必要不可欠なものであると学ぶことができた。

８日間の実習で学芸員として成長させていただいた久喜市立郷土資料館の方々に深く感謝を申し上げます。

館園実習を振り返って
群馬県立歴史博物館

井口喜景

私は、群馬県立歴史博物館で５日間の実習に参加した。館の概要・学芸員の業務の説明、資料保存の方法など学芸員の業務全般について説明を受けた。実技はSNSによる広報の作成、教育普及事業の体験、研究室実習を行った。研究室実習は歴史・考古・民俗の３つの研究室に分かれ、私は歴史の研究室に所属し、絵葉書を整理し、整理した絵葉書を元に展示を考えた。

特に印象に残っていることは、博物館の業務である。一般的に教育普及は学芸員が担うことが多いが、群馬県立歴史博物館は学芸係と教育普及係に分掌されていた。学芸員と協力しながら事業を行っており、実際に教育普及の事業を体験したが、どれもクオリティが高く、分掌されているからこそ質の高い事業が提供できるのだと感じた。多種多様なメニュー開発への工夫を感じ取れた。苦戦したことは、展示の作成である。展示のテーマやコンセプトを決め、資料の選定、資料の配置決め、キャプションの作成をした。特に難しかったのが、キャプションの作成である。来館者が見てわかりやすい文章を考えなくてはならず、情報過多にならないように表現の工夫が必要であると学んだ。

今回の実習では、座学では得ることができない貴重な学びを得ることができた。実習を通して、博物館がより身近な存在になった。忙しい中時間を割いてくださった館の皆様に感謝したい。

博物館実習を終えて
群馬県立歴史博物館

川 島 希 美

私は、群馬県立歴史博物館で５日間の実習をさせていただいた。

１・２日目は、館の概要から学芸係・教育普及係の業務、保存管理等の講義を受け、３日目以降は、各研究室実習等、実際の業務を体験した。各研究室実習では、専攻である考古学研究室に配属され、土器・石器の洗浄から綿布団の作成､借用を想定した土器の梱包・開梱作業、調書やキャプションの作成を行った。また、４日目には綿貫観音山古墳を訪問し、博物館と地域、遺跡現地のつながりと役割を学んだ。

特に印象深かった実習が２つある。まず、来館者動向調査実習である。来館者から実際に出た質問・意見から、現状の展示・キャプションの課題は何か、館・学芸員の意図が来館者に的確に伝わっているのかを把握し、今後に活かしていく作業を行った。この実習では、来館者目線に立って展示・キャプションを作成する大変さと重要さを実感した。

次に､キャプションの作成とSNS原稿作成の教育普及実習である。限られた文字数の中で情報の取捨選択を適切に行い、伝えることの難しさを感じた。

この実習では、学芸員に対してイメージしていた楽しい部分だけではなく､実際の業務・現実課題の一部を見させていただき、学芸員が担う業務の幅広さを実感した。

お忙しい中実習をさせていただいた群馬県立歴史博物館の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

学外実習を受けて
江東区中川船番所資料館

大 木 颯 介

私は、江東区中川船番所資料館で博物館実習を行いました。私を含め４人の実習生とともに、土日休みを含み１週間実習を行いました。

まず１日目は、実習生同士の自己紹介を行い、博物館実習の説明を聞きました。そして、中川船番所の見学をしました。中川船番所資料館にある展示品を巻尺で測り、写真を撮りました。そして、写真をエクセルにまとめ展示品の整理を行いました。５日目の最後に、実習生で江東区の歴史についての発表をするということを伝えられました。

２日目は、展示品の移動や、展示品ケースの移動、展示パネルの取り外し、展示パネルのカットを行いました。また、展示品倉庫の見学を行いました。

３日目は、実際に来館者への接客、展示品の説明を行いました。私は、江東区に住んでおらず江東区や、江東区の歴史については詳しくはありませんでした。しかし、来館者への説明のため江東区について個人的に勉強しました。

４日目は、避難訓練を行いました。火事が起きた時を想定して、非常口からの逃げ方や、避難の方法を学びました。また、パネルを作成しました。

５日目は、江東区芭蕉記念館、深川江戸資料館の見学を行いました。そして最後に江東区の河川の歴史について発表しました。

博物館の運営は学芸員により作られていることを改めて実感しました。

博物館実習を通して
江東区芭蕉記念館

萩 原 彩 紀

今回私は江東区芭蕉記念館で実習をさせていただいた。実習を振り返って、初日はガイダンスとして館全体の案内や経営団体についての説明を受けた。午後は収蔵庫の資料整理及び収蔵品の確認を行った。２日目は、チラシの梱包、発送作業を行い、三館共通券の対象にもなっている近隣の博物館を見学した。同じ地域の博物館でも、コンセプトや展示方法が異なっていたので、非常に勉強になった。３日目は資料調査を行った。座学だけではわからなかったことが多くあった。そして、普段はケースの中にある資料を見学できたことが大変興味深かった。４日目は子供向けの講座があり、その補助を行った。生涯学習として大人が来る一方、子供に向けての取り組みも重要である。全ての人に楽しんでもらえる工夫が肝要だと思った。５日目は資料調査の続きと講演会の準備を行った。来館者が実際に入ることを意識して設定することは中々難しかった。最終日は、時雨忌全国俳句大会の受賞式があった。多くの人が訪れ、展示室を見学する人も期間中一番多かったように感じた。

この実習を通して考えたことは、人に物事を教える大変さ、そして多くの業務をこなす効率性である。今回の実習では実に多様なことを学ぶことができた。自分は文化財に対しては興味があるが、偶々訪れた人たちでも楽しめる展示を提供することが肝要だと思った。

普通と一味違う実習
国立科学博物館

髙 木　　瞳

私が実習を行った博物館は国立科学博物館です。国立科学博物館は1877年に創立された、日本で最も歴史のある博物館の一つであり、自然史・科学技術史に関する国立の唯一の総合科学博物館です。

実習期間は７日間で、自分を含めた参加人数は10名、最初の３日間は対面で、オリエンテーションと残り３日間はオンラインという変則的な実習でした。また、教育普及活動について学ぶ博物館実習だったので、基本的には講義とグループワークを行いました。そのため、実物資料に触れるという機会はありませんでした。しかし、普段は見ることのできない筑波地区にある収蔵庫や研究室を見学する貴重な機会がありました。

実習中の最終課題として、「かはくのモノ語りワゴン」という常設展示内で行っていたボランティアによる展示解説の企画書とシナリオを作成する課題がありました。最終日にオンラインで実習担当と教育普及担当の方々の前で、パワーポイントで作成したスライドを提示しながら実演を行いました。

実習を通して、博物館が行っている最前線の事業や教育普及活動の現状について学ぶことができたことや、普段学ぶことのない科学の分野や、科学的思考に対して知識を深めることができたのでよい経験になりました。

博物館実習を終えて
埼玉県立さきたま史跡の博物館

大吉榛奈

私は、７日間にわたって埼玉県立さきたま史跡の博物館での博物館実習を経て、博物館の運営や学芸員の普段の仕事内容、資料の取り扱い、博物館内や遺跡の整備など様々な分野への理解を深めることができたと感じている。

特に、博物館資料の展示に関する講義、実習が印象に残っており、実際に館内の国宝展示室を見学した上で気づいた問題点と改善案を考え、実習生同士でどんな試みをすべきか話し合うといった討論の場では、博物館実習に至るまでの今までの学びや知識を生かしてアイデアを生み出すといった有意義な時間を過ごすことができた。複数人で話し合うことで、自身では気づくことのできなかった新たな問題点や改善策を知ることができたり、逆に自身の案の問題点を把握できたりなど、皆で意見を出し合うことの大切さを改めて感じた。

また、資料の取り扱いについては、実際に自分たちで梱包材をつくり、その梱包材を使用して梱包を行うことで、形状や素材、状態が様々である資料に、どの梱包材をどのように使うのが最適であるのかをじっくりと考えることができた。

この度の博物館実習では、今まで大学において座学や模擬実習で学んできた博物館に関わる知識や技術を存分に発揮できたとともに、実際に博物館という現場で学芸員の仕事を体験することで、新たな気づきを沢山得ることができたと感じている。

博物館実習を終えて
埼玉県立さきたま史跡の博物館

中村聡美

私は、７月19日から８月12日まで計７日間にわたり、埼玉県立さきたま史跡の博物館において実習をさせていただいた。実習では主に広報・学習支援、史跡整備、保存・展示の３つの分野について、実践形式で学んだ。

まず広報・学習支援では、体験学習で用いる埴輪・勾玉作りや勾玉キットの作成、体験学習イベントのポスター作りを行った。特に埴輪作りでは、ただ単に埴輪を作るのではなく、子ども達のお手本になり、かつ子ども達の自由な発想を引き出せるようなデザインが必要であり難しさを実感した。

史跡整備では、博物館敷地内にある古墳を見学し改善点を見つけ、レポートを作成し実習生同士で発表し合った。特に、史跡内の看板の設置案について、デザインだけでなくバリアフリーの観点や行政の許可といった課題があることを学んだ。

展示・保存では、綿布団作りと梱包・資料検査用紙の記入、有害虫モニタリング、国宝展示室の改善案についてディスカッションを行った。特に国宝展示室の改善案について、学芸員の方の「よりよくする策を考え続け、口に出していく。」という言葉が印象に残っている。

以上のように、博物館の運営に関わる幅広い分野の実習を受けさせていただいた。運営に関する考え方は博物館だけでなく今後社会に出た後でも必要となるものであり、今回の経験を今後に活かしていきたいと考える。

博物館実習を終えて
埼玉県立歴史と民俗の博物館

後藤啓太

私は、９月に埼玉県立歴史と民俗の博物館で館園実習を受けた。５人１組の班に分かれ、１日から９日のうち６日間共に行動した。

実習内容としては、初日と２日目は広報、IPM に関する実習と座学中心であった。IPM に関する実習では、館内に設置している捕虫器の中を見て害虫を発見し、その大きさに合わない脅威に驚き、防虫対策を万全にする理由に納得した。３、４日目は巻子や掛軸といった歴史資料、考古資料の取り扱いを行った。また、４日目には勾玉作りや藍染めハンカチ作りといった体験学習を実際に行い、その問題点を討議した。５日目以降は班ごとに展示を企画し、見立てで実際に展示を作った。この際、刀剣、甲冑と授業では教わることのなかった資料の扱い方を教えていただき、緊張しながらも実際に扱うことができた。

６日間の実習を終えて、私は実際の学芸員の仕事を垣間見ることができた。学芸員は「雑芸員」と揶揄されることもあるが、資料収集や管理、展示構成、広報など、その仕事は多岐にわたり、博物館運営には欠かせないものであると考える。また、時代の変化と共に運営に関する価値観をアップデートする必要があるかもしれないということ、資料収集の手間と収蔵品の管理徹底といった博物館が置かれている現状やその課題点についても知ることができ、大変有意義な時間であったと考える。

博物館実習についてのレポート
埼玉県立歴史と民俗の博物館

島村聡美

９月１日から６日間、埼玉県立歴史と民俗の博物館での博物館実習を行った。実習では広報、資料管理、IPM、古美術・民俗・考古の取り扱い、梱包、体験学習、展示実習を行った。実習では、授業では得ることのできない実践的な実習で貴重な経験ができたと思う。

その中でも、特に重要だと思った実習は、効果的な広報と展示の構成である。ただ文章を並べるのではなく来館者のデータ分析を基にどのようなターゲットの人に、どのような方法で、どのような内容を伝えれば良いのかを考える。ターゲットにあった広報を行うことで来館者増につなげることができると学んだ。それに伴い展示構成もターゲットによって解説内容を変えることで理解度促進につなげていく。

同じく重要だと思ったのは資料の取り扱いについてである。展示の際に出し入れするだけではなく、資料の状態観察や状態に応じた対応等の技術的なことだけではなく、所有者の自宅に訪問を行った際の礼儀作法なども学ぶことができた。さらに、梱包の実習では資料を梱包する際は緩衝材を巻き付けるだけでなく、最低限の動きで解梱できる工夫がされていることを学んだ。

博物館実習では日頃博物館で行っている業務や、資料を守るために行っている対策など、博物館業務の実際を学ぶことができた。この経験を今後の社会人生活に活かしていきたい。

博物館学芸員に求められるもの
埼玉県立歴史と民俗の博物館

星野　楓

実習は６日間に及び、博物館の広報や施設環境の整備についての学習、資料の保管・取り扱い方法の実習、体験学習の実習、展示の演示実習など幅広い学芸員の業務を行った。実習中は、それぞれ班に分かれてのグループでの活動が中心だった。実習の中でも、展示実習が特に印象に残った。

展示実習で私の班は「張り子」という紙で作られた民俗玩具の展示を担当した。私を含む班の皆が「張り子」を知らないという状況であったため、「若い世代の人に親しみをもってもらう」ことをテーマに掲げた展示を企画した。展示ケース内には歴史や作成方法などの資料の解説パネルを設置した。また、手前と後ろの作品で高低差を付けることや、解説にひらがなでルビをふるなど、子どもや日本語に慣れていない外国人でも作品をわかりやすくするなどの来館者目線での展示に取り組んだ。時間が限られている中での作業のため、お互いに自分が何の作業に取り組んでいるか声を掛け合うと、次に何をすべきかを明確にしながらチームで動くことができた。

学芸員は、日ごろから様々な人の視点から企画を考える必要があることや、展示では期限内に完成させるためにチームワークを重視した働きを求められることを実感した。博物館の運営には、学芸員として専門的な知識を学ぶだけでなく、人とのコミュニケーションが重要なのだと学んだ。

館園実習を終えて
さいたま市立博物館

小田淳朗

私は、歴史学の学習をきっかけに博物館や文化財に興味を持ち、大学で学芸員について学びました。そして、博物館の職務を体感しより多くの知識や技術を吸収したいと考え、さいたま市立博物館の館園実習に参加しました。10日間の実習では、主に企画展示の作成と「夏休みこども博物館」の企画である体験講座の対応を経験しました。

さいたま市立博物館は、主にさいたま市の歴史や文化を扱う博物館であり、実習では地域の食文化を紹介する展示を製作しました。一つの展示を完成させるまでに、展示品の準備やキャプション製作、展示の設営など多くの作業があることを実感するとともに、これらを限られた期間で計画を立てて行う学芸員のスキルの高さを改めて学ぶことができました。縄文土器作りや藍染めの体験講座の対応では、講座の進行や子どもたちへの対応に、試行錯誤を重ねながらも一生懸命取り組みました。また、学芸員の方々からは、学問の専門家として向上心を持って教育活動に取り組むことの大切さを教えていただきました。子どもたちが楽しく興味を持って学んでくれるような講座にできたのであれば嬉しいです。

今回の館園実習は、学芸員の仕事のやりがいや苦労を知るよい機会となりました。この経験を活かし、これからも博物館や学芸員について学びを深めていきたいです。

実習を通して感じた学芸員の苦労
相模原市立博物館

大 日 方 悠 人

私は、相模原市立博物館で９日間、考古分野の実習に参加しました。

当館では、毎年、各分野の実習生がテーマを決めて展示を作り、それを実習生展示として公開することになっており、実習の６日目から８日目まではその準備を、最終日は来館者に自分たちの作った展示の解説を行いました。考古分野は６人を２チームに分け、私のチームは埋葬に使われたとされる土器を用いて、縄文人の死生観を探ってみる、というテーマにしました。しかし、資料について調べ、並べる資料を選定し、キャプションとパネルを作り、ケースに配置し、解説の準備をするという流れを３日間で終わらせる必要があり、なかなか思うように作業が進みませんでした。

９日間の実習を通して感じたことは、学芸員１人の仕事量が多すぎる、ということでした。展示準備の際、３人でも人手が足りないと感じたので、実際の学芸員がもっと過酷なことは想像に難くありません。実習中何度も聞いた学芸員の苦労話が印象に残りました。また、最低限の人数であらゆる業務をこなすという、地域の博物館の厳しい実情が窺えました。企画等を減らせば仕事は少し楽になるのかもしれませんが、そうすると来館者も減ってしまいます。博物館が一定の利用者数を維持できているのは、利用者の見えないところで学芸員が日々頑張っているからなのだと実感しました。

館園実習を終えて
渋谷区立松濤美術館

八 重 樫 莉 音

渋谷区立松濤美術館での館園実習は、非常に意義のあるものとなりました。初日は施設見学が行われ、当館ならではの工夫がされていることを学びました。また、SNS での宣伝を想定し、１つの展示作品を紹介する作業を通して、広報の語彙力・文章力が重要であると理解できました。

１週間の実習の中で講義があり、現在の博物館・美術館は昔とはどのような違いがあるのか、当館の展覧会を行うまでの過程という内容でとても興味深かったです。講義の中には、展示企画を考えてプレゼンを行う作業もありました。タイトルのインパクトで興味を惹きつけること、展示品についても工夫が必要であるとアドバイスをいただきました。私は「泡沫の夢」というタイトルでバブル時代を取り上げ、ターゲット層や展示概要などを発表しました。その作業は大変な反面、どのような工夫をすれば多くの人が来館するかを考える過程が楽しかったです。

また、実習期間中に公募展の作品募集が行われたため、他の実習生と協力して会場準備の作業を行いました。積極的にコミュニケーションを取り、円滑に進めることができました。募集日当日に、私は、誰がどの作品を製作したのかを間違えないようにパソコンに入力する作業を行いました。実習期間中に、病気のため欠席することもありましたが、最終的には、仲良く協力し実習をやり遂げることができたため良かったです。

博物館実習を終えて
市立市川考古博物館

北村　隆

私は、市立市川考古博物館という主に縄文時代と弥生時代の遺物を展示している博物館にて実習を行わせていただきました。

当初１週間で行われる予定でしたが、コロナの影響で、５人１班のところを３人と２人の２班で、前後半に分かれて１班が４日間の短縮日程で「市川の考古学Ⅱ」という企画展の展示を行いました。Ⅱというのは、昨年度実習を行った実習生が携わった企画展の続きということでⅡという表記になりました。

私は前半の班で、後半の班が２人で人数が少ないため、前年度実習生が行った企画展の展示資料の取り外しと選定、パネルの制作など、ほとんどの業務を行いました。私はパネル制作の担当となり、主にワードを用いてパネルの制作を行いました。来館者の目に止まるように、背景の写真選びやフォントの大きさ、色、種類等を細かく調節してパネルを制作するのでとても大変でした。また、チームで行動するので休憩時間も班の人とパネルの位置や大きさ、展示資料の配置等を話し合いました。

また、博物館実習で初めて博物館の裏側を見て、遺物が博物館に溢れかえっている状態で、会議室など保存庫以外の部屋にも遺物を置かないといけない状態で、今後遺物の数は更に多くなるので保管方法の見直しが必要だと感じました。

市川歴史博物館の実習を受けて
市立市川歴史博物館

山中光太郎

私は、今回の実習先として市立市川歴史博物館に参加させていただき多くのことを学んだ。実習中に行った金属保存処理や、昭和初期の絵日記に実際に触れることで、学芸員としての資料への接し方について大学で学ぶよりも緊張感をもって学べ、博物館が抱える収蔵庫の問題についてはその現状を自分の肌で感じ、博物館の限界と努力を知ることができた。また、教育機関として市民への教育普及については、展示のキャプション作成や資料の貸し借りを通して、興味を持ってもらえるような活動を常に心掛けていく必要があると感じる内容であった。

これらの体験を通して、学芸員は１人でこなす活動は多岐にわたるが、自館だけに留まらず他団体との協力関係の下に資料のやり取りも行う存在で、その活動によって市民の方に役立てられ、やりがいを感じられる職であると感じた。この先、博物館実習を受ける際に気を付けておくべき事として二つある。一つ目は必ず挨拶をすること。挨拶を行うことで印象を良くするだけでなく、気分良く実習に望むことができる。二つ目は積極的な声かけを行うこと。共に学ぶ実習生とコミュニケーションをとっておけば困った際に助けてもらえるからである。この二つを意識してぜひ望んでもらいたいと考えている。

学芸員の資質／観察眼／変化対応
進化生物学研究所

徳 重 陽 子

令和４年11月21日から11月25日まで、進化生物学研究所で実習に参加させていただきました。

実習を通して展示・保存・管理について、また収集や研究についても具体的な事例を丁寧に説明していただき、総合的に学ぶことができた５日間でした。座学と実施で多角的なものの見方を教わることで、学芸員の仕事が多岐にわたることを実感しました。特に、生物系の博物館であるので、学芸員が生物の飼育・管理・展示について命や種を守り伝えていく責任ある仕事を担っていること、動植物を相手に日々変化のある現場において、常に観察し柔軟に対応する力が求められることを学びました。

また、学芸員は研究者でもあるため論文を資料としてラベリングを行う大切さ、保存・管理の注意点などについて伺い、想像よりもずっと時間や手間、コストがかかることがわかりました。

学芸員の方に館内で様々な来館者を想定して実際の「解説」をしていただき、年代によってどのように知的欲求を高めるかという工夫に感心しました。また解説中でも常に安全面への配慮を怠らない緊張感も感じました。

レムール（キツネザル）やケヅメリクガメ、スナネズミ、珍しい魚たちなど動植物へ直接接することや、多くの標本や化石を見る機会も多く、刺激の多い大変勉強になる実習でした。

博物館実習を終えて
杉並区立郷土博物館

遠 藤 健 太

私が今回実習に行った博物館は、杉並区立郷土博物館です。平成元年（1989年）に都立和田堀公園の中に開館しました。ほかにも荻窪に分館があります。

私はそこで６日間、実習を行わせていただきました。実習の内容は多岐にわたりましたが、大きなものが二つあります。それは子ども博物館教室の補助とミニコーナーの企画というものです。

子ども博物館教室とは、生涯学習として博物館に子どもが訪れ体験学習を行うというものでした。今回の授業内容は勾玉作りであり、子どもにアドバイスと怪我をしないか見ていました。そこで学んだことは、基本的に子どもの好きにさせるのが一番であること、子どもがアドバイスを求めるまでは見守り、制作する姿を見ていることです。これが難しいことで、意識しなければつい口を挟んでしまいます。子どもが学ぶ場で、過剰な手伝いはやめたほうがよいことを学びました。

もう一つ、ミニコーナーの企画ですが、常設展の中に、数カ月に一回テーマを変えて、所蔵品の中から物を展示するミニコーナー『すぎコレ』があります。私たちはその展示を実習で作りました。テーマを夏休みに決めて、資料を探し、飾っていきました。自分達で説明文や装飾も考え、制作するので何日もかかりましたが、この作業は大変楽しく、また大変勉強になりました。

博物館実習を通して
草加市立歴史民俗資料館

齋 藤 里 奈

私は草加市立歴史民俗資料館で、８月18日から28日の内７日間実習をさせていただきました。実習期間の７日間は、毎日学びや発見の連続で、非常に多くのことを経験・吸収させていただきました。実務経験を通して、責任感や社会意識の向上を実感することができました。

実習では主に、資料の取り扱いや展示替え、講座や体験教室に参加させていただきました。展示替えでは、館や資料の持つ魅力をさらに引き出しつつ、全ての人にわかりやすい展示にするために、実習生と試行錯誤を繰り返しました。この経験で、展示には学芸員の苦労やこだわり、情熱が散りばめられていると改めて気づくことができました。

また、実習中は多くの来館者の方々と関わることができました。その中で来館者の方々が、資料館で熱心に学ぶ姿や活発に会話や交流を楽しむ姿が印象に残っています。資料館は、地域社会に欠かすことのできない存在であると実感しました。

今回の実習を通して、学芸員は技術や知識のみならず、信頼性やコミュニケーションも重要であることを強く感じました。まだまだ未熟で反省する部分も多いため、今回の貴重な経験を活かして、これからさらに磨いていこうという意欲に繋がりました。

最後になりますが、お忙しい中実習を受け入れていただいた草加市立歴史民俗資料館の関係者の方々に、深く感謝申し上げます。

博物館実習を終えて
千葉県立房総のむら

内 藤 亜 美

私は、印旛郡栄町にある千葉県立房総のむらで実習を行いました。房総のむらは参加体験型の博物館で、江戸・明治時代の商家の町並みや武家屋敷、農家を再現しており、そこでは伝統的なくらしや道具、ものづくりなど実に350以上もの演目体験をすることができ、タイムスリップしたかのような臨場感が楽しめます。

実習では、施設の見学、演目の体験、農家の土蔵にある民俗資料の整理、古文書の目録作成などを行いました。また、広報の仕事の一環として、１人１テーマでブログの作成を行い､作成したブログは実際に館のホームページに掲載されています。特に印象に残ったのは、トピックス展で企画された上総掘りです。上総掘りとは、明治中期頃に上総地方で考案された井戸掘り工法です。実際に職人を呼んで足場から作り、採掘をすることができます。実習期間中はまだ来館者の体験は受け付けていませんでしたが、特別に体験させていただきました。授業では学ぶことのできない貴重な体験になりました。

この実習を通して、学芸員の仕事が多岐にわたり、自分の研究分野以外の知識が必要であり、現場に合わせて臨機応変に対応しなければならないと知ることができました。経験と幅広い知識が求められる仕事であると感じました。

博物館実習を終えて
千葉市立加曽利貝塚博物館

雨 宮 奈 央 佳

私は、７月28日～８月５日（８月１日を除く）の８日間、千葉市にある加曽利貝塚博物館にて実習を行った。実習では、特別史跡である加曽利貝塚の歴史や加曽利貝塚博物館の今後の計画等についてお話を伺ったのち、館内や野外施設を見学し、竪穴住居跡群が現地保存・公開されている施設で作業を行った。また、火起こしや組紐づくり等の体験学習に参加した。さらに、展示の企画立案や展示作業に約６日間かけて取り組み、実習生による展示を完成させた。

実習を終えて特に印象に残っているのは、博物館において学芸員が行う業務の幅広さである。資料の収集・整理・保存・展示、施設の環境整備、特別展示の企画立案・実施、教育普及活動など、学芸員の仕事は非常に多岐にわたる。私たち実習生が４人で行った展示作業は、通常、学芸員の方が１人で行うことが多いと伺った。限られた時間の中でこれらの業務を遂行するには、知識を身につけるだけでなく、一定量の経験を積むことが必要であると感じた。また、実習でのさまざまな体験を通して、来館者の視点に立って物事を考えること、挑戦や失敗を繰り返しながら学んでいくことの大切さを実感した。８日間の実習で得た学びを、今後多くの場面に活かしていきたい。

実習にてご指導いただいた加曽利貝塚博物館の皆様方に深く感謝申し上げます。

博物館実習について
中京大学スポーツミュージアム

柴 田 真 希

私は、中京大学スポーツミュージアムにて館園実習を行い、大学の講義では学ぶことができなかった学芸員の仕事を実際に間近で体験することができ、とても有意義な学びになりとても良かったです。そこでの５日間の実習では、博物館・収蔵庫の見学やパンフレット作成、資料保存と資料登録、そして常設展の展示作成を行いました。

これらの多くの仕事を行い、学芸員の仕事は資料の保存や保管だけでなく、パンフレット作成などの雑務にまでわたり､私自身が思っていたよりも仕事量が多くあり、体力がすごく必要だと感じました。また、常設展の展示作成を展示品の選定から展示ケースの入れ替えまでを４日間かけて行いましたが、博物館の展示として、資料から来館者に何を伝えたいのかを意識することが大切だと思いました。キャプションの作成では、短い文章で展示品の説明をわかりやすく書くことや、展示ケース内の資料配置では、来館者にとってどのように見えたらより博物館として伝えたいことが伝わるのか意識する必要を学習しました。

最後に、５日間の実習で多くの仕事を体験することができましたが、どの仕事も多くの気をつける点や深く考えなければならない点があり、学芸員として視野を広く持つことが大切だと感じました。

実習を終えて
土浦市立博物館、上高津貝塚ふるさと歴史の広場

石 川 英 明

私は、土浦市立博物館、上高津貝塚ふるさと歴史の広場で実習を行った。土浦市立博物館は、茨城県内でも３館しか認定されていない公開承認施設であり、そのような場で実習を行えるのは光栄な事と感じつつの活動であった。６日間という短い期間ではあったが、とても有意義で濃密な時間であったと思う。

実習内容は、土と出土物を分ける篩分けや、貝洗いといった地道なものから、刀剣の取り扱いといった、他館ではあまり行われないような貴重なものまで多岐にわたった。地域博物館ということもあり、民俗資料に関する講義や台帳のスケッチを経験することもできた。スケッチを細かく描いてしまったのは反省点であった。この癖はどうにか修正したいと思う。資料収集に関しても、現場の生の声が聴ける貴重な機会であり、非常に有意義なものであった。「資料からどういう情報が引き出せるか、それをどのように第三者に伝えるか」が腕の見せ所であり、普段の活動で見る目を養う、という積み重ねの重要さも説いていただいた。これによりまた一つ、学芸員という仕事への理解に深みが増したと確信している。

学芸員としての技術、知識だけでなく、礼儀やチームワークの重要さなど、社会人として大切になってくる事も改めて心に刻み込むことができた。実習に携わってくださった全ての方々に感謝申し上げる。

博物館実習を終えて
土浦市立博物館、上高津貝塚ふるさと歴史の広場

曾 我 尾 渉

私は、８月中の６日間の実習で上高津貝塚ふるさと歴史の広場で２日間、土浦市立博物館で４日間の実習に参加した。実習では座学を受け、博物館の役割や概要などのお話を伺った。他にも、貝殻洗いや土と遺物を分ける「ふるいわけ」、古文書の整理に取り組んだ。そして、資料の取り扱いでは、掛軸や巻物、民俗資料、刀などの取り扱いを学んだ。

実習で感じたこととして、「ふるいわけ」では当時の環境を読み取ることができ、地道な作業でも、しっかりと意味があり、大切だと感じた。また、刀の取り扱いでは、危険な扱いをすれば自分が怪我する可能性があり、それにより資料も傷つくので、資料側の視点も考える必要があり、資料は何百年も生きて、これからも生き続けるので、向き合い方も学んだ。

６日間の実習を終えて、私は学芸員には様々な能力が必要だと思った。例えば古文書の整理では、チームで声を掛け合い、チームワークや臨機応変な対応が必要だと感じた。また、資料を収集する際も、どの条件の資料が博物館に必要になるか判断力や聞き取る力も必要で、様々な能力を求められると思った。

最後に、館園実習では学芸員の方と関わり、他の実習生との交流もでき、有意義な時間であり、学んだことも今後活かしたいと感じた。そして、実習を受け入れて下さった両館の皆様に感謝申し上げます。

博物館実習を終えて
土浦市立博物館、上高津貝塚ふるさと歴史の広場

藤 井 諒 子

私は、８月23日から28日の６日間、土浦市立博物館と上高津貝塚ふるさと歴史の広場で実習をさせていただいた。上高津貝塚ふるさと歴史の広場では２日間、施設見学、考古資料の整理作業として出土した貝殻の水洗いや遺物包含層のふるい作業を行い、主に考古資料の取り扱いや埋蔵文化財事業について深く学ぶことができた。土浦市立博物館では、４日間様々な資料の取り扱いを講義と実習を通して学び、刀剣の手入れ作業、古文書の目録作成と整理、巻子本・折本の取り扱い、掛軸の調書取り、民俗資料の台帳作成などを行った。資料ごとの取り扱い方や保存、収集、展示の仕方について学ぶことができた。

実習を通して印象に残ったのは、学芸員としての心構えのお話である。特に信用・自負・知識の重要性を感じた。資料の貸借が多く起こる博物館において、学芸員の資料の取り扱い方や態度で信用を損なうことは致命的ということ、学芸員は館の専門性を一手に担うことを自覚し研究者としての自負を持つべきということ、自身の専門外でも興味関心を持って知識や情報を得ることで、現地調査等で資料の持つ意味や価値を感じ取れるということを学んだ。

今回の実習では、様々な資料の取り扱いや館内業務について学ぶことができ、さらに学芸員としての心構えや博物館が抱える問題について深く考えさせられ、とても貴重な経験となった。

博物館実習を終えて
天理大学附属天理参考館

清 水 悠 利 加

私は、奈良県天理市の天理大学附属天理参考館で実習を行いました。天理参考館では世界の生活文化と考古美術の展示と収集を行っており、実習では、収蔵庫の資料整理、資料の登録と保管作業、資料保存の取り組み、展示作業、教育プログラムの参加などを５日間にわたって体験し、多くのことを学ばせていただきました。

中でも特に印象に残っている実習は、資料の観察と並行して贋物の鑑別を行ったことです。数ある資料の中に混ざった贋物は見極めが難しく、なかには本物と接合されているものもありました。

贋物を資料として展示してしまう可能性に恐怖感を覚え、学芸員の責務の重さを痛感した一方、創設者の「偽物には偽物を作った人の気持ちがこもっている。」という言葉をもって全否定しない学芸員の方の姿勢は、悪意ある創作物として良い印象を持っていなかった私にとって目から鱗であり、認識を改める契機となりました。

また、先入観に囚われずに多角的な視野をもつことの重要さを実感し、学芸員には幅広く正しい知識を備えたうえで、審美眼と俯瞰的な視点を持つことが必要であると学びました。

最後に、コロナ禍という情況の中、遠方からの実習を受け入れていただきご指導くださった天理参考館の皆様に改めて感謝申し上げます。

博物館実習での経験
栃木県立博物館

駒 場 弥 夢

５日間の博物館実習では、特に学芸員になる際に必要なスキル、そして学芸員として心得ておくべき決まりなどを、現場の学芸員の方々から直に拝聴できるまたとない機会であった。

１日目は、主に学芸員の心得についての説明であった。そこでお聞きした特に大切なことは、館ごとに特色があり、基本的に学芸員には専門を含め広く浅く知識を持つオールラウンダー性が求められることであった。前もって聞いていたことだったが授業と現場では臨場感が違った。

２日目は、それぞれの分野の仕事内容の説明であった。そこで私を受け入れてくださった博物館では、大きく分けて人文・自然の２つの分野の他に広報という分野があり、この分野にも広報を専門に取り扱う学芸員さんがおり、主に教育普及やアウトリーチ活動に取り組んでいる。また人文・自然分野でも共通点や特色がそれぞれあり、細かい分野を分析することもできるほどにわかりやすい説明をいただいた。

その後３日間は、それぞれ配属された部門で細かなご指導をいただいた。私は人文分野の歴史部門にて、展示までのスケジュールの組み方や、実際に貴重な収蔵物を使わせていただいての実演実習や、展示の手伝いをさせていただき、またとない経験をした。この博物館実習で、私は大いに成長させていただけた。今回の経験で価値観の幅が大きく広がったと感じる。

博物館実習を終えて
栃木県立博物館

舘 野 隼 弥

私は、７月21日、22日、８月10日、９月１日、２日の５日間実習を行った。

私が実習を行ったのは、栃木県立博物館である。しかし、今まで未経験だった自然系の分野での実習だった。実習では、奥日光でのフィールドワークや体験会の事前調査、冷蔵庫更新のための収蔵物の運び出しなどを行った。学芸員の仕事を体験し、普段は見ることができないものも多く知ることができた。専門外の分野であるため、新鮮な気持ちで取り組むことができ、多くの学びを得ることができた。

博物館実習を終えて感じたことは、２つの重要性だ。

まず１つ目に、資料を保存することだ。特に動物は、地域・時代での差や個体差があるため、とにかく多くの資料を遺すことが必要になる。その資料を多く集め、比較することで過去の分布などを知る手掛かりにもなるためだ。資料があれば、それが事実だという証拠にもつながる。また、資料を残す際は、それがいつ、どこで集められたものなのかも明記しておく必要があると感じた。

２つ目は、視点を変えることだ。普段何気なく見る光景でも「なぜこうなったのだろう？」と考え、その答えを探すことで新たな気づきを得ることができることを知った。

それらを歴史学科への学びに還元するだけでなく、日常生活にもこれらの気づきを応用していくことができるように、今回得た学びを忘れずに取り組んでいきたい。

博物館実習を終えて
栃木県立博物館

野口大樹

私は、栃木県立博物館で計５日間にわたり館園実習をさせていただきました。

初日は、ガイダンスとして開講式や栃木県立博物館の概要についての説明を受けた後、館内のバックヤードを見学させていただきました。２日目は実習生全体で座学を受けました。人文系・自然系それぞれの業務の概要や資料の収集から活用までの流れについて説明を聞きました。また、博物館で行われている教育広報活動や、友の会の活動内容についてもお話を伺いました。

３日目からは実習が分野別に分かれ、私は「考古分野」での実習が始まりました。開館40周年を記念して開催された特別企画展「鑑真和上と下野薬師寺」の展示室内の案内板を設置するほか、展示室前で映像を流すためのテレビの搬入作業を行いました。また、特別企画展に際して行われた特別講演会の会場準備や受付を行いました。ボランティアの方ともコミュニケーションを取る機会もあり、たくさんの人の支えのもと博物館の運営が行われているということを再認識しました。

５日目は、主に展示ケース内の資料の搬出作業と、寄贈を受けた資料の梱包作業を行いました。実物の資料を直接触らせていただくことで、その取り扱いの慎重さを感じることができました。

実習を通して、地域における博物館の役割や博物館運営の裏側を知ることができ、とても貴重な経験を得ることができました。

栃木県立博物館で実習を受けて
栃木県立博物館

山村　楓

私は７月・８月の間の５日間、栃木県立博物館で実習を受けた。

実習の内容について、まず１・２日目は座学を主に行い、博物館の概要について学んだ。県立の博物館として地域発展の向上に尽力していることや、人文系・自然系それぞれの学芸員の方の業務内容を学んだ。教育広報課の方のお話も伺い、SNS を使用した博物館のＰＲ活動を行うなど、広報にも尽力されていることがわかった。また、バックヤード見学もさせていただき、普段来館者としてはなかなか見ることができない博物館の内側を見せていただいた。実習３・４・５日目は、分野別に分かれて実技を行った。私は歴史分野だったため、まずは当時栃木県立博物館で開催予定だった特別展「中世　宇都宮氏展」を例として、博物館の展示について詳細な説明をいただいた。また、実際に館内を案内していただきながら、展示についての説明や、工夫について学んだ。さらに実際に巻子や錦絵、書状や鉄砲、屏風、刀や掛軸などたくさんの種類の資料を実際に触らせていただき、その取り扱いの方法についても学んだ。

このように、私は実習を行った５日間、日々新しいこと、慣れないことの連続だったが、様々な業務を体験させていただき大変充実した実習期間を過ごすことができた。この５日間で新たに得た知識を、しっかりと自分のものとして身に付けたいと思う。

博物館実習を終えて
成田山霊光館

田中　颯

私は、９月７日から14日まで成田山霊光館で博物館実習を行った。その中で大変だったと感じる作業は２つあった。

１つは、常設展「市川團十郎家と成田山」の展示替え作業でのキャプションの文案の作成である。資料の情報を読み取って説明文を考える際に人の興味関心を引かせ、誰が読んでも納得できる文章にするために学術的表現の加減が難しかったが、簡潔な文章を生み出すために他の参加者と協力して活発な議論を生み、納得できる文章を作成することができた。

もう１つは、古文書の裏打ち作業である。この作業は、虫害で破損した古文書をガラス板の上に乗せてハケを使用して水分を含ませる。次に、小刀で鉛筆を削る要領で削り尖らせた細い木を使用してゴミの除去と脆い箇所の位置修正を行う。上からのりを塗り、新たな和紙を貼ってハケでのばして馴染ませる。その後ガラス板から慎重に剥がし、新聞紙に広げて乾燥させる作業であった。しかし水分を渋ってしまい、新しい和紙とのりがうまく接着せず剥がれてシワになってしまうことがあったが、破損程度に応じて水とのりの配分を調整し、上手く作業することができた。実物資料を使用し、常に緊張感のある中にいたことで、学芸員の仕事が想像以上に知恵を働かせアイデアを出し合うことが必要であることやコミュニケーションや連携が重要なことを痛感する経験となった。

成田山霊光館での実習を終えて
成田山霊光館

堀越彩奈

７日間で様々な内容の実習を体験させていただいた。初日から３日目は、特別展と常設展の展示替えを中心に実習を行った。また、昭和期に撮影された写真を封筒に収め、台帳に記録する作業も行った。４日目は、石膏を用いた土器片の模型作成と１人１点ずつ考古資料の修復を行った。考古資料の修復において、私は古墳時代の高坏の修復と補色を行った。５日目は前日の続きを行った後、考古資料が箱の中で転がらないように布団を利用して包み、収蔵庫に収めた。６日目は古文書に裏打ちを施し、虫食いや汚れが激しい史料の補強を行った。７日目は、前日に裏打ちを行った史料の糊付けが不十分だった部分に追加で糊付けを施し、アイロンがけをして二つ折りにし、ページが順番通りになるように並べ替えを行った。最後に成田山書道美術館の見学を行い、学芸員の方からお話をいただいた。

考古資料の取り扱いや古文書の裏打ちなど実習で初めて行った作業が多かったが、学芸員の方の丁寧なご指導があり、他の実習生と協力して作業を進めることができた。実習を通じて、技術や知識だけではなく、コミュニケーションの大切さも学んだ。また、実際に展示される資料に触れて扱い方を学ぶという経験は、得難いものだったと思う。

今回の実習に際していただいた数々のご厚意に感謝し、実習体験記の結びとする。

輪王寺宝物殿での実習を終えて
日光山輪王寺宝物殿

宇 都 木 梨 子

日光山輪王寺宝物殿の博物館実習は、９月12日から９月16日までの５日間で行われた。実際に文化財を取り扱い、修復現場を見させていただくなど実践的でとても貴重な体験をさせていただいた。

初日に実習館全体の見学と日程確認を行い、２日目からは本格的な実習に入った。実際に金工品・漆工品の調書をとり、彩色見取図をカメラを使った撮影を行った。３日目は文化財修復についてのＶＴＲを視聴し、伝統を伝える難しさと大切さを学んだ。その後、日光山についての講義を受けてから輪王寺の境内全体の見学を行った。４日目は、掛け軸の取り扱いを行った。実際に文化財を手に持つと練習で使用していたレプリカとは全く違い、緊張で手が震えた。また、日光社寺文化財保存会の見学をし、現場を見学させていただいた。修復の作業工程や、修復現場を生で見させていただき、伝統が受け継がれていることを肌で感じることができた。最終日には、輪王寺にある資料で計画した展示計画の発表を行った。初日から発表をすることがわかっていても時間が足りず、焦りを感じた。テーマに沿った文化財を見つけるのが難しかったが、最終的にまとめることができてよかった。

この５日間で、文化財を修復し、未来へと伝える大切さを身をもって学んだ。実習での貴重なお話と体験は、自分にとって大変良い経験となった。

博物館実習での学び
日光山輪王寺宝物殿

小 林 蕗 乃

私がとても印象に残っているのは、日光社寺文化財保存会事務所を見学させていただきお話をうかがったことです。実際に日光東照宮の門にある彫刻を持ち帰って作業しているのを見学させていただき、滅多に体験することができない貴重な体験をさせていただきました。彩色、漆、改修工事の現場を見学させていただきましたが、どの現場でも作業時に気を付けていることは、日光の高い湿度であるとおっしゃっていました。これは、高い湿度が物の傷む速度に関係するためです。博物館等の展示物は湿度に注意し様々な展示方法で宝物を管理しています。しかし、建築の彫刻や柱は展示ケースに守られている博物館の宝物とは違い、むき出しの状態です。そのため木材に塗る物の成分や製作する際の管理方法などには大変注意していました。また、他県に運ぶ際の環境変化への配慮など、私が想像できる留意点よりもはるかに上回っていました。自分の知識や経験の少なさゆえに、歴史ある物の劣化を早めてしまう可能性があると思うと、慎重さが求められる大変な仕事だと痛感しました。

これらは、輪王寺に実習に行ったからできた経験であり、得られた知識もとても多かったです。今回の実習を通して、宝物等の適した管理方法は１つだけではなく、その場の判断が重要になることを知りました。

輪王寺宝物殿での実習をおえて
日光山輪王寺宝物殿

權 田 海 斗

私は、日光山輪王寺宝物殿で５日間実習をさせていただきました。輪王寺宝物殿は、日光山の歴史を物語る歴史的・美術的価値の高い資料を保存・研究し、参拝者へ公開することを目的として建設された博物館類似施設です。

１日目の実習は、午後から始まり、前半はオリエンテーションと宝物殿見学、後半は座学で輪王寺宝物殿の運営と所蔵資料について学びました。２日目は調書の取り方を学び、その後文化財の扱い方を学びながら調書を取る練習をしました。３日目は文化財修復のＶＴＲ視聴、日光山の歴史と信仰についての座学と境内見学でした。４日目は掛軸・巻物の取り扱いと展示、日光社寺文化財保存会事務所の見学でした。５日目は、輪王寺資料を使用した模擬展示計画の準備と展示計画発表を行いました。発表では、館長や学芸員の方から、貴重なご指摘やお褒めの言葉をいただきとても勉強になりました。

今回の館園実習では、観光客に向けた展示を行ったり、外国人にもわかりやすいような展示をすることが大切であることも学びました。また、宝物殿に留まらず、様々な建造物にある御像などの状態確認調査などの仕事があったり、バリアフリーなどの直接資料や展示に関係しないことへの対応も求められることもあったりと、学芸員の仕事が多岐にわたるということを改めて実感しました。

輪王寺宝物殿で実習を行って
日光山輪王寺宝物殿

髙 野 真 由

私は、日光山輪王寺宝物殿で９月12日～16日の５日間実習を行わせていただいた。今回は、私を含め大正大学の学生５名が実習に参加した。

初日は、館の説明と実習に関するオリエンテーションをしていただき、２日目は寺宝の取り扱い、調書の取り方についてご教授いただいた。３日目は文化財の修復技術と三仏堂の修理に関するＶＴＲの視聴、輪王寺のご説明と境内見学、４日目は、日光社寺文化財保存会と現在修復最中の慈眼堂の見学をさせていただき、それぞれの文化財の修復にあたっている現場の方々からお話を伺った。最終日は、輪王寺の寺宝を用いた展示計画を立て、各実習生がそれぞれ発表を行った。

今回実習を受ける中で、所蔵品を「文化財」というよりも「寺宝」として取り扱うことがお寺の宝物殿ならではであると感じた。「今でもなお信仰の対象となっているため、大切にしてきた人々の思いを尊重しなければならない。」というお言葉が心に残った。

また、修復にあたっている職人の方から直接お話を伺い、後継者不足や修復に使う道具・顔料の減少などの問題を学ぶことができ、すべての文化財が直面している危機であると改めて考えさせられた。

この実習を通して、貴重な体験ができたと思うのと同時に、日光山の信仰についての理解を深めることができた。今回の経験を今後のさらなる学びに活かしたいと思う。

輪王寺宝物殿で得られた経験
日光山輪王寺宝物殿

田 中 秀 明

私は、９月12日から９月16日までの５日間、日光山輪王寺宝物殿で実習を受けた。実習の内容としては、日光山全体の見学・文化財の取り扱い、最終日は日光山輪王寺宝物殿の展示室を利用した模擬企画展示発表を行った。

具体的な実習内容として、文化財保存会の見学では日光山の社寺を維持・修復するための様々な技術や道具を見せていただき、実際に修復している現場も見学させていただいた。文化財の取り扱いでは、掛け軸や金工・漆工を取り扱う時や調書を取る時は、事前に大学で学んだ知識を活かすことができた。しかし、実際に本物の掛け軸を扱った時には、掛け軸のくせや傷、破れがそれぞれにあるため、なかなかうまく巻くことができなかった。最終日は、日光山が所蔵する文化財を扱って自分が行いたい企画展示を考え発表した。私は「日光山と徳川家」を企画した。学芸員の方から評価もいただけた特別な経験となった。

５日間の実習を通して、大学の授業では学べない実際の文化財の修復や維持管理の大変さについて感じ取れたと考えている。日光山に存在する社寺を見学し、お寺に鳥居があるなど神仏習合が見られ、1300年以上の歴史を誇る日光山の歴史の重みを感じ取ることができた。また修復現場を見学させていただくことはおそらくほかの実習先ではない輪王寺宝物殿ならではの実習内容だと思う。

博物館実習を終えて
日本民藝館

葛 西 祐 衣

私は、日本民藝館で前期実習３日間、後期実習８日間の計11日間の実習を行った。日本民藝館は、1926年に柳宗悦らが東京・駒場に開設し、陶磁器・染織品・木漆工品・絵画・金工品・石工品・編組品などの日本をはじめ諸外国の新古工芸品約17000点が収蔵されている。実習生は全員で15名おり、専攻分野は様々であった。

前期実習の３日間は実習生全員で講義を受けた。内容は、日本民藝館と柳宗悦について、展示資料の扱い方について、日本民藝協会について、学芸員の在り方、管理運営など幅広く学んだ。最終日には実習班ごとにジュニアガイドを作成し発表を行った。各班さまざまな工夫がされており、自分にはないアイデアも知ることができ、とても興味深かった。

後期実習では、主に展示品の撤収、展示ケースの掃除、展示の入れ替え、写真・染織品の額入れ作業、額装の展示作業、照明の取り付け作業を行った。

また最終日２日前からは館内の傷を目立たなくする作業、中庭の掃除、館内の掃除を行い、最後に全ての展示室を鑑賞して後期実習を終えた。

実習中で印象に残っていることは、実習生同士で額装の展示を行ったことだ。どうすればより効果的に、見やすく展示品を鑑賞してもらえるかを実習生同士で話し合う中で、展示は奥が深く非常に難しいのだと感じた。実習を通して、展示に対しての姿勢や新しい視点を学ぶことができたと思う。

実習を終えて
沼津市明治史料館

杉 山 未 峰

私は、沼津市明治史料館にて実習に参加した。主なプログラムは、市内にあるギャラリーで行う展示作成であった。展示で使用する資料の選定や解説キャプションの執筆、パネルの作成、展示設営など展示作業の様々な工程に携わった。実際に展示を構成するにあたり、どのようなことを考えながら展示の配置を作ればよいのか、どのような工夫をしたら自分たちが伝えたいことが伝えられるのかなど、普段展示をみるだけではわからない制作側の視点を学ぶことができた。作業はとても大変ではあったが、無事に展示設営を終えた際には、達成感があった。

また、最終日には展示案プレゼンテーションを行った。ギャラリーでの展示作成と並行して進めたが、自分で一から展示案を作ることは想定していた以上に難しかった。プレゼンテーションを行った後のアドバイスを聞き、展示を考えるには多くのことを考えて企画を作らねばならないと感じた。また、自分たちがみている展示には様々な工夫や考えがなされて行われていることを改めて実感した。

今回の実習では、前述した作業以外にも様々な業務を行った。学芸員の仕事は幅広く、これらの作業を通じて、学芸員側の視点を学ぶことができたのではないかと感じた。今回の学びを通じて、今後も学びを深めていきたい。

箱根郷土資料館での実習について
箱根町立郷土資料館

田 中 景 子

郷土資料館では、授業では学びきれない実務や現状課題のほか、学芸員として大切にしなければならない意識も学ぶことができました。実習内容は、実技と座学に分けて行われました。実技においては、資料に触れる前から資料を戻す作業、保護観点上の適切な扱い方など、常に深く気を配る必要がありました。座学では、民俗文化財や箱根の伝統文化である湯立獅子舞についてご教授いただき、資料と人をつなぐコミュニケーション、思いやりが重要であると学ぶことができました。

今回の実習の中でも、最終日に取り組んだ展示の企画・作成が、強く記憶に残っています。しかし、悔しいながら実習生全員で作業を分担しても、締め切りに間に合わせることができませんでした。日頃は数名の学芸員の方が、展示室の配置や資料、キャプション、その他催しについても受け持つということで、学芸員の仕事は想像以上に激務であると体感しました。また、日常生活では博物館を観る側として訪れていましたが、実習を通して博物館を創る側に立つことで、新たな見識を広めることができました。何気ない空間は、資料を護るための線引きであったり、人の流れを作る一部であったりと、博物館は細部に至るまで意味の込められた場所であると認識できた、大変有意義な実習でした。

長谷寺での実習を終えて
長谷寺宗宝蔵

小 板 橋 郁 美

私は、長谷寺宗宝蔵で博物館実習をさせていただきました。真言宗豊山派総本山であり、西国三十三所第八番札所のお寺です。「花の御寺」として親しまれています。

実習内容としては、防虫剤の入れ替えや古文書のラベル貼り、データベースの校正、展示室の閉室作業などをさせていただきました。また、消防の方の収蔵庫調査や資料返却の貴重な現場を見学させていただくこともできました。想像以上の学芸員の業務量に圧倒されましたが、担当の方が丁寧に教えてくださり見聞を深めることができました。掛軸などの取り扱いは授業で行っていましたが、実際に資料を扱うときは緊張しました。しかし、相手に不安を与えてしまうため、過度な緊張はよくないと学びました。基本を弁えた上である程度のスピード感をもって作業することが大切だと実感しました。展示室閉室の作業は、展示ケースが狭い中で資料を素早く丁寧に片付けることに苦戦しました。資料の素材や人物などについてその都度教えてくださり、新たな知識を得ることができ非常に楽しく、貴重な経験となりました。また、実際に法要などで資料を使うことがあるため、博物館とは少し異なる業務があることも学びました。

今回、実習を温かく受け入れてくださった事務所の方々、学芸員の甲田さん、久野さんをはじめお世話になった方々にお礼申し上げます。

博物館実習を終えて
東村山ふるさと歴史館、八国山たいけんの里

栗 原 七 海

私は、７月27日から８月12日までの間で計10日間、東村山ふるさと歴史館および八国山たいけんの里で実習に参加させていただきました。

実習初日は全体のガイダンスと、実習前半の目標である夏まつり開催に向けた企画立案のために実習生がプレゼンテーションを行いました。

実習２日目から４日目は、夏まつりの準備期間で、実習生ブースの製作を通じて、実習生全員が協力し合うことにより親睦を深めることができました。実習５日目は夏まつり当日で、運営スタッフとして来館者の方の対応を行いました。来館者の中には未就学児の方も多いため、安全面の配慮や新型コロナウイルスの感染対策など、様々な点に気を遣う必要があるように感じました。

実習６日目から９日目は、館の概要や各施設の紹介などのふるさと歴史館の役割と、考古学・民俗学・古文書の各分野における東村山市の市史について学びました。また、実際に館が収蔵している東村山市内の歴史資料を用いて、はたき作業・表題作成・写真撮影・注記作業なども行いました。

10日目の最終日は、展示室内で自身が興味のあるブースを選び、実際に職員の方と他の実習生の前で展示解説を行い、改善点を教えていただきました。

今回の実習は自身にとって、座学では知ることのできない実際の博物館の活動内容を学ぶ素晴らしい機会であったと感じました。

博物館実習を終えて
日立市郷土博物館

財 津 裕 希

私は、茨城県日立市郷土博物館で計５日間実習を行いました。日立市郷土博物館は、日立市やその周辺地域の展示を中心としており、地域博物館としての役割について知識を深めることができました。５日間の実習では、資料が保管されている倉庫の見学をはじめ、めったにできない仏像の洗浄などをさせていただきました。そして、資料整理、拓本、アンギン編み、SNS 記事作成、美術資料の取り扱い、撮影実習、日立市郷土博物館について学ばせていただきました。

中でも印象に残っているのは、１日目に行った仏像の洗浄体験と、２日目のアンギン編み体験です。仏像の洗浄作業をすることはめったにできない体験のため、説明を受けながら丁寧に作業しました。洗浄が終わった時の仏像はとてもきれいで、それと同時に緊張感のある重要な作業であり、とても貴重な経験になりました。アンギン編み体験では、アンギンの歴史、編み方を教えていただきました。縄文時代の人々の生活に触れ、大変よい経験でした。

今回の実習を通して、博物館学芸員の保存・研究以外の仕事を間近で見ることができとてもよい経験になりました。また、寄贈された資料を見て、地域の方に寄り添い、強い繋がりを持つことで成り立っていると感じました。この実習で学んだことを忘れず、今後の社会生活で活かしていきたいと思います。

机上では学べなかったこと
日野市郷土資料館

藤 代 嵩 也

私がこの度の実習に臨んだ上で大きく印象に残ったのが、文化財を定義するにあたり、どのような視点から観察して価値を見出していくのか、ということであった。日野市郷土資料館はその性質上、地域の民俗文化を象徴するモノが多く集積される。初日、館長の講演により例示された一体の仏像は、歴史上の巨匠の作でも、素材に希少性があるわけでもなかった。しかし、地域に根付く伝承とそれに伴う習慣を象徴するものとしては、優れた独自性を有したものであったのだ。博物館がモノに新たな価値を付与する特性から、モノを観察する視点と意義を吟味する責任があることに気がつき、多角的な視点を培うことの重要性を再認識させられた。

また、机上で学んでいたことが現実問題としてどのように博物館を取り巻いているのかを強く意識させられた。館によって運営や施設の環境が様々である以上、実際にできることは限られる。当館においても、マンパワーの不足により資料調査に手が及びきらないこと、保管場所の余裕が無く資料すべてに適した環境を用意できない現実など、様々なお話を伺った。こうした正負どちらの側面も認識したことは、私にとって当事者意識をもって博物館の理想と現実の差に向き合うこと、その中でより良い妥協点を探り続けることに繋がった。思考を止めず、これからも学び続けていきたい。

博物館実習を終えて
平等院ミュージアム鳳翔館

川名美緒

私は、平等院ミュージアム鳳翔館で５日間実習を行いました。実習では、IPM、金工調査見学、観音堂清掃、養林庵書院見学、企画展の展示替え、記者発表の見学など、平等院でしかできない貴重な体験をさせていただきました。

講義では、文化財の知識をつけるだけではなく、館内の防災空調の設備や、文化財保存の環境に関する知識を学習する大切さを学びました。また、住職特別講義では、平等院や宇治の歴史や文化財の年代調査を実際に行っている所を見学することができました。

実習の中で特に印象に残っていることは、展示替えと最後の発表です。当初、学芸員は基本１人で作業をするだろうと考えていました。しかし、実際の展示替えでは、文化財破損箇所の確認作業、展示ケースの文化財位置確認作業などを複数名で確認し、重い文化財などは２人以上で協力して展示することが多く、チームワークが大切な仕事だと感じました。最後の発表では、記者発表や広報の講義で学んだことを参考に、国宝の鳳凰像について実習生の前で発表を行いました。実際に発表をすると、発表原稿を見続けながら話してしまう、相手からの質問に対し知識不足で上手く答えられないといった反省点が多かったのですが、自身の課題に気付ける良い機会となりました。

最後に、実習を受け入れてくださったご住職や学芸員の皆様に厚く御礼申し上げます。

平塚市博物館の実習について
平塚市博物館

芦川昇瑚

私は、９月７日から９月15日の約７日にわたって平塚市博物館に実習に行きました。実習生は23名で、６分野に分かれました。実習内容は、展示批判から修正することや教育普及活動、７日間限定で展示する企画展示作成を行いました。実習中では、事前課題で出された展示批判の発表から各分野に分かれて展示物の修正を行いました。この作業では、縄文土器のみの修正でしたが、台の設置や土器の見方と試したものの、展示全体のバランスを考えて展示することを学びました。特に平塚市で出土した五領ヶ台式などの何回も位置を変えたりしていたので取り扱いには、緊張感がありました。

教育普及活動では、子供との接し方や作成物を元に、星に興味を持ってもらうことを目的に行いました。

企画展示作成では、考古分野４人で３日間という時間の中で平塚市博物館に所蔵されている土器を使って企画展示を行いました。その中で、土器の何を見て面白いのかを指摘され、展示テーマの意図をはっきりさせることや、ポスター・キャプションで文様や形の魅力の熱量を文字で表すこと、文字のフォントの統一、ポスター・キャプションなどのバランス観覧者が違和感のない展示制作を行いました。

この実習で展示資料の見せ方や伝え方をさらに追及することができました。

博物館実習を終えて
富士見市立水子貝塚資料館

末 國 結 衣

私は、８月23日～27日と、８月31日～９月４日の計10日間、埼玉県富士見市の水子貝塚資料館で博物館実習に参加させていただきました。

水子貝塚資料館は、史跡公園と併設されており、実習は、毎日公園の門の開錠と園内のゴミを拾うことから始まりました。公園には、毎日多くの市民の方が資料館の見学や散歩、運動のためにお越しになります。園内を清潔に保ち、危険がないか確認することも資料館の大切な仕事であることがわかりました。

実習では、主に企画展の展示準備を体験しました。展示資料の選定やキャプション・パネルの作成、レイアウトなどを実習生４人で協力して行いました。しかし、実際に展示してみると、解説文の内容に誤りがある、文字が小さいなど、多くの修正すべき点が見つかり、予定よりも完成させるのに時間がかかってしまいました。展示を行う際は、来館者の方にとってわかりやすいかどうかを常に意識し、限られた時間のなかで丁寧かつ効率的に作業を進める必要があることを学べました。

また、勾玉づくりなどを子供たちに教える体験もしました。地域の方との結びつきを強めることや、子供たちへの学習機会の提供につながるため、このような参加型のイベントを積極的に開催することも博物館の重要な活動であることがわかりました。

水子貝塚資料館の皆様、10日間誠にありがとうございました。

船橋市郷土資料館の実習を終えて
船橋市郷土資料館

浅 利 美 渚 子

船橋市郷土資料館での実習内容は、主に収集・保管・展示や調査研究に即した内容であるように感じました。１日目は、資料館の全体の説明に加えて拓本の体験をさせていただきながら、埋蔵文化財の発掘調査までの流れについてお話を伺いました。２日目は船橋市内の別の場所にある分室へ向かい、民俗資料の取り扱いおよび紙資料の取り扱いを学びました。郷土資料館ということもあり、主な収蔵品は船橋市にゆかりのある民俗資料や船橋市で発掘された土器などとなっていました。３日目は、民俗資料の調査研究の方法と流れについて学びました。実際に古い時代の紙資料からどのように年代や詳細を考えていくのかを教えていただきました。４日目は展覧会の企画立案の模擬体験を行いました。どのように工夫を凝らして来館してもらうか、どのようにしたら興味を持ってもらえるかの試行錯誤の上に展示が成り立っていることを学びました。５、６日目は館内収蔵資料の整理を行いました。紙資料が傷まないように一つ一つ丁寧に中性紙封筒に分け、さらに一つ一つ記録していく必要性と苦労があることを学びました。

本来であれば知ることができない博物館の実情なども学ぶことができてとても有意義な時間を過ごすことができたと思います。

飛ノ台史跡公園博物館での実習
船橋市飛ノ台史跡公園博物館

鈴 木 美 咲

６日間の実習では、イベントの設営、園内にある史跡の測量、資料の洗浄・分類・作成などを行った。測量では、平板測量とレベルを用いた測量を行った。値を誤って記入しないように積極的な声掛けや、今何をしてほしいかを明確に伝えることなど、細かいことを確認し考えながら行うことが大切であると学んだ。測量する際には、後の研究で使用する時にどういう情報が記入されていると役に立つのか、距離や長さ以外のことにも気を配りながら進めた。資料の洗浄・分類・作成では、発掘されたモノを洗浄・登録を行い、資料に名前を付けて価値を与えるというとても大事な作業であると同時に、後世の研究材料を多く残しておくことの重要性や、小さな資料であってもそこからわかる事の多さを体験しながら学べた貴重な経験であった。

実習生は５人おり、個人で作業することよりもチームで作業することが多かった。学芸員は１人で集中して業務を行っていくイメージがあったが実際に実習を行い、課題解決に向けて自分の役割を把握しコミュニケーションを取り、次の行動を見据えながら動くことの多さに驚いた。その場限りの仕事ではなく、後世に資料を伝えていく大事な作業であるということ、今回の実習で体験した仕事以外の仕事量の多さなど、学芸員は大変で重要な役割を担っていると改めて学ぶことができた。

博物館実習を終えて
船橋市飛ノ台史跡公園博物館

髙 橋 万 梨 愛

私は、船橋市飛ノ台史跡公園博物館にて６日間の実習を行った。常設展、特別展の見学をし、イベントの設営、平板やレベルを使用しての測量、博物館資料の洗浄、整理、作成などを学んだ。

全ての作業を実習生５名で行ったが、学芸員には円滑なコミュニケーションが求められることを知った。測量実習では、次に測りたい場所やどの情報が今後重要になるのかをチームで話し合う機会が多くあった。個人で行う洗浄作業でも、自分が洗っている資料はどのような特徴があるのか、どういったところに価値があるのかを伝えるという時間があった。頭の中では理解できていても、それを言葉にすることを難しく思うことが何度もあったため、今後の課題としたい。学芸員は１人で作業を進めていくという先入観があったが、今回の実習を通してチームで作業することが多く、コミュニケーションが重要になっているということを学んだ。

実習期間中、「学芸員の仕事は資料に価値をつけ、未来に残していくことだ。」という言葉を何度も聞いた。実際に資料を自分の目で見て、触れて、未来に伝えていくという学芸員の仕事の責任の重さをこれからも忘れないようにしたい。

博物館実習を終えて
松戸市立博物館

篠原聖奈

私は、千葉県松戸市にある松戸市立博物館で2022年８月４日から10日までの間、実習を行わせて頂きました。

初日は博物館のバックヤードの説明をして頂き、普段見ることができない博物館の裏側を見学しました。中でも収蔵庫を見学した際に、保管されている所蔵品の多さに驚き、実際に展示されている展示品はその一部でしかないことを実感しました。

２日目は近世・近代文書史料の整理を行い、松戸市幸谷村酒井家文書を調査、内容の要約、ナンバリングを行いました。

３～４日目は、子供向け体験教室のお手伝いを行い、他の実習生の方と協力しながら体験教室の司会・進行を任せて頂きました。

５日目は、他館（流山市立博物館・葛飾区郷土と天文の博物館）への見学に行きました。どちらも初めて訪れた博物館だったので、展示を楽しみながら、それぞれの展示の特徴を勉強することができました。

６～７日目は子供向けの企画発表を行いました。「子供達に博物館を訪れてもらうには」をテーマに、私は展示を回りながら展示品カードを集める展示補填アイテムの提案を発表しました。担当学芸員の方々にフィードバックをして頂き、改めて企画、提案の難しさを実感することができました。

今回の実習を通して、これまでの学芸員のイメージとは違い、学芸員の仕事の幅の広さや、企画の連続であることを学ぶことができました。

博物館実習を通して
武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館

佐藤悠成

私は、武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館での６日間の博物館実習を行った。館の概要としては、市の歴史を未来へ継承するとともに、地域の歴史を学ぶ拠点とするため、古文書、民俗、考古資料、戦争関係資料などを収集、保存、研究、公開する機能のほか、市民が利用可能なスペースを備え、歴史資料を媒体とした市民交流拠点としての機能を提供することなどを目的としている。また、公文書の中でも歴史的な価値を有するものを歴史公文書として位置づけ、保存及び公開する公文書館機能を持つ歴史館である。

６日間の博物館実習の中で最も印象に残っていることは、展示実習である。これは、自分で展示するテーマを決定し、６日間で展示の準備を進め、最終日に学芸員の方に向けて発表するというものである。私は、近世における武蔵野周辺の村の助郷をテーマとして「宝永二年正月　甲州街道上下高井戸宿助郷証文写」という史料の展示を行った。その準備段階として、キャプションの作成を行ったが、その展示を通して観る人に何を伝えたいのかを端的に説明するのが難しかった。また、自分の展示がどのように人の役に立ち、社会に貢献できるのかというところを十分に考えることができなかった。

私は、この実習を通して、相手の立場に立って考えることの大切さを改めて知った。この経験を今後に活かしていきたい。

速水御舟との出会い
茂原市立美術館・郷土資料館

中 村 絵 美 理

初めの３日間は美術品の取り扱いなどの体験、残りの２日間は茂原の歴史などを講義形式で学ぶプログラムとなっていた。

美術品の取り扱いでは、次に開催される『速水御舟～初期作品と素描～』の展示に向けての準備を行った。初日は前回展示されていた作品の片付け、２日目は速水御舟の作品の運搬、３日目に配置などの細かい展示作業を行った。普段立ち入ることができないガラスケースの中に入って作業を行った。ケース内にいると外側からの声が聞こえづらく、指示がある場合は必ず外に出るか、ケースから顔を出さなければならなかった。現場にいなければわからない様々なことを知ることができた。

速水御舟に関しても詳しく教わった。御舟は同じ色ばかり用いて絵を描いていた時期があり、その時期を群青ばかり使っていれば群青中毒、黄土色ばかり用いていたのなら黄土色中毒と呼んでいるらしかった。展示作業を通して、画家の性格や癖などをより詳しく知ることができるのだと学んだ。展示作業の済んだ展示室を見回すと、達成感があった。

歴史の講習では、茂原市は1500～2000基もの横穴墓群が発掘されていると教わった。ニュータウン開発がされた緑ヶ丘は、墓郡があった山を切り崩して作られていることを知ったときは驚いた。古文書の読解なども行い、虫食いのある本物の巻物に触れるなど、貴重な体験をさせていただいた。

博物館実習を終えて
茂原市立美術館・郷土資料館

吉 野 真 央

私は、土日を空けて８月24日から31日までの６日間、茂原市立美術館・郷土資料館で行われた博物館実習に参加させていただいた。

今回の実習では、学内実習で取り扱う機会のなかった絵画作品の特徴や作業を行う上での注意点などについて細やかな説明と実物に触れながら経験することができ、新たな知識を得られ大変貴重な学びとなった。そして、展覧会の展示撤去・陳列作業の全てに携わることができたのはとても貴重な経験となった。特にガラスケースに陳列する作業では、壁面とは異なりガラスケースと作品の距離感やガラスの反射・照明の明るさなど様々な要因が鑑賞環境に影響を与えていることを実感した。どれか一つが欠けただけで作品の見え方が大きく変化したのには驚いた。また、キャプションの配置位置や作品の高さを揃えるなど細かい作業もあったが、鑑賞に集中するために重要な作業だと完成した展示空間を見て気づくことができた。

実習を通して、来館者が違和感を抱かずに鑑賞できる空間や、資料を傷めないための展示工夫など、一つの展示空間を構成するにあたり、来館者と資料にとってより良い状態を提供するために学芸員が考慮しなければならない要素が沢山あることを知ることができた。

コロナ禍という大変な状況の中、６日間にわたり丁寧なご指導をいただき誠にありがとうございました。

八潮市立資料館の博物館実習記録
八潮市立資料館

村 田 和 駿

私は、八潮市立資料館で10日間にわたり博物館実習を行った。実習では、実際に資料を扱った梱包作業や掛軸の展示方法、常設展の展示やキャプションとパネル作成、資料の出納作業など、多様な貴重な経験をさせて頂いた。実習中、特に印象深かったのが、常設展の一部を使って行った展示実習である。資料を展示するだけでなく、資料のキャプションとパネルの原稿も考えて、子供から大人まで読めるような内容を、限られた文字数で説明することは非常に難しさを感じた。しかし、その中で他大学の実習生と協力して、一つの展示を完成させた時は非常に達成感を感じた。

また、動画作成実習では、博物館に興味を持ってもらえるようにYouTubeで博物館の利用の仕方などを実際に発信した。実習の期間中には昔遊び講座が行われ、私達実習生も補助で参加したが、子供達が博物館で楽しめるような講座を行うことで、博物館と地域との繋がりを作ることも学芸員の仕事であると感じた。10日間博物館実習に参加したが、実習前は、学芸員は展示全般のことだけを担当していると思っていたが、学芸員は限られた人員の中で、企画展示の準備や利用者への案内、各種講座などを行っていて、学芸員の仕事は多種多様で大変な仕事ではあるが、利用者と博物館を繋ぎ、博物館情報を可能な限り市民に還元する重要な仕事であると実習を通じて感じた。

学外実習を受けて　八潮市立資料館
八潮市立資料館

山 﨑 大 輝

私は、８月23日から９月３日の10日間、埼玉県にある八潮市立資料館で学外実習をさせていただきました。実習の内容については、大まかに体験講座実習、展示企画実習、展示実習でした。

体験講座実習では、「昔の遊びツアー」という体験講座の設営や準備スタッフとして体験講座に携わりました。小学生を対象とした講座であったため、子供たちに注意を払うこと、さらには、近隣の学校にチラシやポスターを配るといった広報の大変さを学びました。展示企画実習では、周年事業や記念事業、世間への関心などを加味し、実施しているということ、その博物館がなぜ行うのかといった整合性が必要であるということを学びました。展示実習では、３人１組で１つのエリアを担当しました。私は、江戸時代の「農村の支配」というテーマの所であったため、江戸時代の書物を扱ったので緊張しましたが、これまで大学、実習で得た知識を発揮し、照明の位置を自分の影で展示資料が見えなくならないように設置したり、展示資料の高さを背の低い人でも見えるようにしたり、工夫をしてパネルやキャプションも納得いく展示に仕上げることができました。

このように多くの作業・資料に触れ、学芸員の心得として一番大事なことは、資料を傷つけないように資料第一に考えるという心構えだと、今回の実習で感じました。

館園実習を終えて
山梨県立博物館

青 山 大 悟

私は、令和４年８月10日（水）から８月18日（木）までの８日間、山梨県立博物館で実習をさせて頂いた。この実習期間中に、学芸員が人とモノを大切にする役割にいるということを再確認することができて本当に良い機会であった。そういった点でこの8日間を振り返ると人とモノ、人と人とを繋ぐためにどうすれば良いかということを深く考えることのできる実習期間であったと思う。

１・２日目では、山梨県立博物館の取り組む具体的な活動内容や、また、山梨県立博物館に関わる人々がどのような考え方を持っているのかということを学び、私自身の博物館、学芸員に対する考え方を見直すきっかけとなった。３～５日目では、博物館学芸員の基本的な資料の取り扱いを実習形式で学び、実践的な経験を積むことができた。６日目では、普及事業の一環である「夏休みイベント」に参加し、地域の子どもたちとふれあうことで、どのようにしたら喜んでもらえるかということを学んだ。７日目では実習生のみの展示製作を行い、展示の意義を学ぶことができた。最終日は資料整理の実習を行い、モノを学芸員の手によって資料化するということの重要性を学ぶことができた。

全ての実習に共通して「学芸員とは何か」ということを再考する大変貴重な経験になったと感じている。

最後に、山梨県立博物館の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

志賀高原ロマン美術館での実習
山ノ内町立志賀高原ロマン美術館

諏 訪 絢 香

私は、７月25日～８月２日までの７日間、出身地の長野県山ノ内町にある志賀高原ロマン美術館で実習を行った。小規模の美術館であるが、町の教育委員会とも密に連携をしており、山ノ内町の文化財も保存している歴史的な一面を有しており、様々なことに挑戦した。その中でも、特に印象に残ったものが３つある。

１つ目は、町重要文化財に指定されている刀剣三振の手入れである。大学の授業では扱ったことがなく、刃物であるため慎重な作業が求められた。内一振は実際に使用されていた物で、未使用の二振と比べると軽く、その違いも体感でき貴重な経験となった。

２つ目は、町の縄文時代の遺跡・佐野遺跡発掘物の調査作業補助である。石斧や石皿、石鏃などの重さを量る作業を行ったが、1.0ｇ単位で量るか、0.1ｇ単位で量るかを発掘物の種類に合わせて変える必要があることを学んだ。

３つ目は、企画立案から実施まで一任していただいた親子連れをターゲットにしたワークショップである。企画展と連動させ、展示作品から着想を得て丸いコースターに自分だけの地球の絵を描くというものだったが、子どもたちも楽しんでくれた。教育普及施設としての美術館の役割を学ぶ良い機会となった。

７日間の実習の中で考古学から現代アートまで多くのことに挑戦させていただき、学芸員に求められる知識や技術の広さを学ぶことができた。

実習を終えて
遊行寺宝物館

伊藤春智

遊行寺宝物館での実習では、資料調査の実践、他の博物館との違いや工夫、展示が終わった後の作業について学ぶことができた。

資料調査においては、遊行寺の一室を借りて一般の家庭を訪問するという想定で行った。館所蔵の資料でない場合には、資料を見る時間は限られており、その短い時間で効率よく資料の特徴を捉え、館に必要なものかを判断するのはとても高度な業務であった。また他人の家を訪れているため、きちんとマナーを備えていることも必要であり、経験も必要な業務であると感じた。

五日間の実習では宝物館の他に藤沢市藤澤浮世絵館とふじさわ宿交流館も訪れた。特に、藤澤浮世絵館では学芸員の方からお話を聞くことができた。市が運営しているが故に、SNSでは投稿の前に逐一許可が必要であるなどの窮屈な点なども知ることができた。

最終日は展示後の作業として、展示ケースの拭き掃除やポスターの張替えなどを行った。事務的な作業だが、丁寧に行うため時間がかかり、展示が終わっても学芸員の仕事は終わりではないのだということを学んだ。

今回の実習で学んだことは、学芸員は専門性と多様なスキルを併せ持っているということであった。

最後になるが、お忙しい中実習を受け入れてくださった遊行寺の方々に感謝を申し上げたい。

遊行寺宝物館での実習を終えて
遊行寺宝物館

久保田夏紀

私は、遊行寺宝物館にて７月30日～９月28日にかけて５日間実習に参加しました。博物館や学芸員、文化財についての座学・展覧会の撤収作業の一環で展示室の清掃やポスターの張替え、日本刀や掛け軸、古文書など実際の文化財を用いた資料の取り扱い、現場での資料調査や企画書作成、他館に見学へ行き、学芸員の方のお話を聞かせていただくなど多くの方にご協力いただき、非常に多くの貴重な体験をさせていただきました。

今回の実習を通して、学芸員の業務は、保存維持・管理・展示にとどまらず幅広いことを学びました。また、文化財の保存と取り扱いや、さまざまな機能を持つ博物館だからこその運営の難しさ、他との連携のためのスケジューリング能力、企画力、多方面への知識と広い視野が必要であると感じ、学芸員の役割と求められる資質・能力が非常に多いことを知りました。また、実際に現場での資料調査実習では、一つの資料調査にも多くの時間を費やすことになることと、資料の取り扱い方に気をつけながら時間配分も考える必要があることも学びました。学芸員とは、多方面に配慮しながら、あくまでも文化財の保護が基本であり、後世につなぐ役割を担っていること、そして文化財一つ一つに真摯に向き合い、常に慎重に丁寧に決して無理はしないように取り扱うことを心がけることが大切であると学びました。

遊行寺宝物館での学びについて
遊行寺宝物館

永 島 史 奈

私は、７月30日から９月下旬までの５日間を遊行寺宝物館で実習を行いました。実習内容は、日本刀の取り扱いや掛け軸を使用した調査、展示撤収作業等を行いました。特に、私が印象に残っていることとして、遊行寺宝物館では、自館でパンフレットを作成していることが印象的でした。宣材写真の写し方やそれに対するこだわりは、学芸員自身のセンスに関わるものであることを学びました。来館者にパンフレットを手に取ってもらえるように、様々な工夫が詰め込まれたのを見て、パンフレットを作る難しさを知ることができとても良かったです。最終日には、展示の撤収作業を行いました。展示ガラスの向こう側に入って隅から隅まで掃除をすることで、文化財が来館者からどのように見えているのかを感じ取ることができました。また、実際に展示ガラスの中で掛け軸をかける経験をしました。狭い中で掛け軸をかけてみて、ガラスとの圧迫感や他の文化財に当たらないように配慮することの難しさを学びました。

学芸員の仕事は、ただ文化財を調査研究し触れるだけでなく、展示をする上で気を配ることや、貪欲に情報を知ろうとする積極的な学習意欲態度、他者とのコミュニケーションが必要なことを学びました。

実習で学んだ知識や経験を今後、博物館を訪れる際に配慮しながら鑑賞したいと考えています。

遊行寺宝物館での実習を終えて
遊行寺宝物館

横 戸　　玄

遊行寺宝物館での５日間の実習は、短いながらも学芸員に必要なことを学ぶことができた貴重な時間だった。

実習では座学が多く、様々なお話を伺ったが、その中で「学芸員には資料を一目見ただけで判断する観察眼が必要。」という言葉が、強く印象に残っている。実習中は日本刀や掛け軸の取り扱い、資料の調書作成、目録作成など、練習用ではない実際の資料に携わる機会があり、その際にどのように扱えば資料を傷めることがないか、慎重に取り扱うことに集中するあまり、作業が遅くなることがあった。実際の現場では作業時間は限られたものであり、可能な限り多くの情報を資料から引き出すため、資料の状態を一目で把握し、常に情報を得ようとアンテナを立てる必要があるという学芸員の方の言葉を、強く実感した。

また、近隣の博物館を訪問し、そこと遊行寺宝物館の運営や施設の違いなどから、収益や資金などの話をご教授いただき、現場ならではの苦労をうかがい知ることができた。

最終日には、実際の展示ケースで掛け軸の展示を行い、現場での作業方法などを解説していただいた。

短い期間ではあったが、実際の学芸員の現場について知ることができ、学芸員に必要なスキルを学ぶことができた有意義な実習であったと思う。

博物館実習の授業について

本学学芸員課程では、３年次に博物館実習Ⅰ－Ａ・Ｂ、４年次に博物館実習Ⅱの科目を設け、館務実習に参加する際に必要な学芸員業務の基礎的知識・技術を学習させています。

ここでは、博物館実習Ⅱの授業を担当された伊藤宏之先生のレポートと、ＴＡ（ティーチングアシスタント）として授業の補助を担当した史学専攻大学院生の園部華与氏・宮内澄羽氏の感想を掲載します。

博物館実習Ⅱを担当して

伊　藤　宏　之

筆者は、今年度から博物館実習Ⅱを担当している。本授業の受講者は、近い将来、学芸員として就職することを希望している学生であるが、実際には、ほとんどが他の職種・業種の企業等に就職している。４年間のさまざまな経験のなかで、自身の希望や考えが変化することは良くあることで、自らが考えて選択した進路は尊重されてよい。しかしながら、全国の博物館・資料館に館務実習をお願いする以上、あくまでも受講者全員が学芸員を志望していることを前提に、授業を行っている。

ここでは、授業を進めていく中で受講者につねづね話していることを、２点ほどまとめてみたい。

第一には、自身の居住地の近くにある博物館・資料館に関心をもってもらいたい、ということである。受講生に、博物館に行ったことがあるか尋ねると、多くの学生が挙手をする。その博物館とは、多くが国立の博物館・美術館であり、時々、都道府県立の施設が混じる。確かに国立や都道府県立の博物館・美術館は、全国各地（ときには海外からも）からさまざまな文化財、美術品等を集め、多くの国民が関心を向ける展示を行っている。また、最新の技術や方法を駆使した展示は魅力的なものである。一方で、区市町村が運営する公立博物館・資料館に見学に行ったという学生は、少ない。しかも、見学に行った時期を訪ねると、小中学校の授業の一環として訪れたきりという。

しかし、多くの学生が館務実習を行う施設は、こうした身近にある博物館・資料館であり、実際に学芸員として就職することがあるとすれば、地域の博物館・資料館である可能性が極めて高い。

地域の博物館・資料館では、常設展示や企画展示・特別展示を通じて、地元の貴重な資料等が余すところなく展示されている。地域に根ざした資料は、一見地味ではあるけれども、そこに内在するさまざまな「価値」を見出すことは、学芸員が職務上得られる醍醐味のひとつであり、その「価値」を、資料を通じて来館者に伝えることが学芸員の役割であろう。自分自身が学芸員として、その役割を十分に果たすためにも、どのような資料を収集して、どのように展示し解説しているのか、実際に見て学修してもらいたい。自分が関心あるテーマだけに捉われず、さまざまな展示を見学することで、新たな発見と知識の深化が期待できるだろう。

第二に、館務実習が終了した後も、できれば来館者として実習館に足を向けてもらいたい。授業では、各自に、館務実習を終えてから実習先での実習内容とさまざまな体験談、感想等を報告してもらっている。実習館ごとに実習内容が異なっているため、個人の経験を全員の前で発表してもらうことで、個々に実習内容を振り返るだけでなく、教室全体で情報と経験の共有が期待できる。報告者には、現場での実体験を報告してもらうのであるが、総じて充実した内容であり、体験談からは多様な実務を経験したことによる満足感が伝わってくる。とても良い経験ができてよかったと思うが、その後、実習先に見学に行ったか問いかけると、多くの学生は行っていないと返答する。

実習中は、展示計画を練ってミニ展示を行ったり、普及活動の一環として講演会や体験学習の補助、運営を行うことが多いようである。実習生は、こうした実務を体験することで、地味な資料が多い展示でも、その価値や魅力をわかりやすく伝えるために、学芸員が腐心する様子を知るのである。実習生自身も、限られた資料と予算、環境の中で、どうすれば来館者に満足してもらうことができるか、充実した博物館活動を運営するための方法と工夫を学び、また、その必要性を体感したはずである。

こうした背景を知った上で、再び、ひとりの見学者として実習館を見学すると、ひとつひとつの展示に、さまざまな工夫が凝らされていることに気付くはずである。そうすると、最初に見学した時とは見える光景が異なり、また、そこから新たに学びとることもあるだろう。

館務実習に参加することで、これまでの博物館活動を享受していた見学者の立場だけではなく、博物館を運営する側の立場、考えも経験することができたのである。だからこそ、そこで得られたさまざまな発見や情報を、再び見学者の立場で経験することで、より確かな知識や技能となるであろう。また、こうした見方を醸成することは、学芸員以外の職種に就職した際にも役立つはずである。

とくに、真剣に学芸員を志す学生は、大学の講義だけではなく、実際にさまざまな博物館や資料館を見学し、機会があれば多くの博物館活動に積極的に参加してみて欲しいと思う。

（本学歴史学科准教授）

博物館実習のティーチングアシスタントを担当して

園　部　華　与

私は、今年度ティーチングアシスタント（以下TA）として博物館実習に携わることとなった。担当させていただいた授業は、遠山元浩先生の博物館実習Ⅱで春・秋の二期にわたってTAを勤めた。昨年度も受講生として遠山先生の授業に参加させていただいたが、今年度は授業や学生のサポートをする立場へと変化し、責任感をもってTAに臨んだ。

今年度は対面での授業形態に戻り、学生たちが実習を十分に受けられる環境となった。春学期は、主に館園実習に向けた実習であった。遠山先生の授業は実技重視であり、博物館学芸員として必要不可欠な技術である巻子や仏像、考古遺物などのモノの取り扱い、カメラの取り扱いや撮影方法、梱包・運搬の方法など、幅広い専門知識と技術を学ぶことができる内容であった。特に掛け軸の取り扱いは重点的に行われ、春学期終盤にはみなひとりで掛けて仕舞えるようになっていた。また座学も実技と並行して行われ、知識だけでなく実際の現場における事例も知ることができる貴重な内容であった。TAの仕事としては、授業前あるいは授業中に必要となる道具や印刷物、出欠簿などの準備をし、授業後は道具の後片付けを行うというものであった。取り扱う道具の種類が多かったため、できるだけ早く収納場所の把握をしようと努めた。しかし準備に手間取ることもあり、先生や学生たちに迷惑をかけてしまったことは非常に反省すべき点である。また授業前には掛け軸を取り扱う練習時間を設けており、先生の代わりに受講生をみることも業務の一環であった。初めのころは戸惑う学生も多く助言をすることもあった。私自身、昨年の学んだことの振り返りにもなり、大変勉強になった。秋学期は、グループごとに展覧会の企画を練り、成果物の制作と発表まで行う実習が主であった。学芸員課程の集大成ともいえる実習で、各グループ真剣に話し合っている様子が度々見られた。実際に展覧会を開催することは叶わないものの、受講生たちの様々なアイデアや個性とこれまでに学んできた知識が凝縮された三者三様のレベルの高い企画発表で、実習のサポートを通じて参考になった点が大いにあった。

私にとって博物館実習ⅡのTAは、これまでの振り返りと新たな知識・技術の吸収の場であり、さらに昨年受講生として学んだ経験を今度はTAとして学生に対する助言に活かすことができた良い機会にもなった。この１年、アシスタントとして勤める傍らで、「博物館とは何か」、「学芸員とはどのような仕事なのか」、「どのような技術や知識が必要なのか」、「どのような役割を担っているのか」を学生とともに改めて学ぶことができた。この経験を糧として今後さらに精進していきたい。最後に、貴重な機会をくださった遠山先生、そして受講生に深く感謝を申し上げたい。

（大学院文学研究科修士課程史学専攻史学１年）

博物館実習のTAを担当して

宮　内　澄　羽

私は今年度TAとして、中村洋子先生の博物館実習Ⅰ―A・B（文化財の取り扱い）と、安藤清先生の博物館実習Ⅰ－A・B（表具実習）の授業を担当させていただいた。学部生の際に授業を受けていたときとは異なる責任感に、当初はかなり緊張していた。

中村先生の授業では、春・秋学期ともに、和本や巻子、掛軸、版本、板碑の取り扱い方や調書の取り方について、先生の講義の後、学生が実際に資料を手に取りながら学ぶというものであった。TAとしての業務内容は、授業前の事前準備とプリントの配付、作業の補助及び質問の対応であった。私が学部生の際に博物館実習Ⅰを受けたときは、コロナ禍によるオンライン授業であったため、改めて実際に資料の取り扱い方や、調書の取り方などを学ぶ良い機会となった。この授業を担当した際、注意した点は、１限からの授業であったため、早めに大学に来て資料や作業道具の用意をするように心がけた。また、終了時についても、私は引き続き２限の授業も担当していたため、資料の片付けと掃除を迅速に行うように努めた。そして、学生からの質問に対しては、自身でも不明な点は自己判断に頼らず、先生からのご指導をいただくようにした。

安藤先生の授業では、主な内容として、春・秋学期ともに巻子・掛軸の取り扱いから始まり、和本の修補、造本を行った。また、宮内庁書陵部にお勤めされている安藤先生から、実際に書陵部で行われている資料の修補作業のご説明や、和紙の種類やその利用方法についてご教示いただく大変貴重な機会があった。TAとしての主な勤務内容は、授業前の資料の準備、また先生からのご指示のもと、使用するのり板やヘラ、文房具などの準備と、授業後の片付けであった。こちらの授業についても、１限の片付けが終わり次第準備ができるように心がけた。そして私自身も、学生と共に和本の修補作業や、巻子作成、綴本の作業に携わらせていただいた。私自身、修補や製本をするのは初めてであったため、慣れない作業に苦戦することが多々あったが、綴本や粘葉装ができあがった時の達成感はひとしおであった。

TAとして４コマの授業を担当させていただいた中、自分自身が学部生の時とはまた異なる授業に対する緊張感と責任感を強く感じた。資料や作業道具の準備に漏れがないようにすることや、授業内における作業中の目配りと気配りに常に重きをおいてきた。授業内では、資料を扱う際に、資料の状態をよく確認し、負担のかからない扱い方を特に心がけた。

また、この１年間のTAの勤務を通して、自身の知識の向上、技術を身につけることにつながった。この経験を更に活かしていけるように今後とも何事にも励んでいきたい所存である。最後に、このような貴重な機会を与えてくださった中村洋子先生と安藤清先生、そして、学生

達に深く感謝申し上げたい。

（大学院文学研究科修士課程史学専攻史学１年）

卒業生通信

各地の博物館等施設で、学芸員として活躍している卒業生が大勢います。今回は、
甲州市教育委員会　生涯学習課文化財担当の髙野愛氏に一文を寄せていただきました。

文化財に関わる仕事に就くということ

髙　野　　愛

職種が少ない、就職先を探すことが困難など、文化財に関わる仕事に就きたいと希望していても、なかなか難しいのが現実です。ただみなさんの中には、卒業後も歴史関連の仕事がしたいと強く思っている方がいると思います。私も学生時代、そのような気持ちを持っていたひとりでした。現在は、甲州市教育委員会で文化財担当として働いていますが、ここに至るまでの仕事について書かせていただきます。

子供のころから歴史が大好きだった私は、大学卒業後も博物館や史料館に就職することのみ考えており、就職が難しいと理解していながらも、他の選択肢を持てずにいました。そんな頭の硬い頑固な当時の私を気にかけて、歴史学科の松本洋幸先生が「図書館も視野にいれてみてはどうですか」と提案してくれました。地元の山梨県甲州市にある勝沼図書館の求人を見つけて、司書として就職しました。勝沼図書館は、甲州市の地場産業であるブドウとワインに関する書籍や資料を中心に収蔵し、地域に根差した図書館です。毎朝、何社もの新聞記事を隅々までチェックし、「ブドウ」「ワイン」の言葉が書かれている箇所があれば、すべてコピーを取り保存する徹底ぶりでした。資料（史料）は残そうと思わないと後世に残ることはなく、100年後の未来のために仕事をしていると感じました。平成30年度に同じ甲州市の宮光園という日本ワインの歴史を学ぶことができる史料館に学芸員として就職し、翌年、甲州市役所に一般行政職員として入庁しました。そして令和４年度からかねてより希望していた文化財担当へ配属されました。

図書館から史料館そして現在の配属部署、常に歴史に関する仕事に関われた私はラッキーだったのだと思います。ただひとつ言えることは、私は周りに「歴史が好きなこと」「学芸員資格を持っていること」を常に伝えていました。自分だけの力ではどうにもならないことでも、口にすれば自分だけでなく、誰かが聞いてくれていて、何かのきっかけで未来が動くことがあるかもしれません。後に知りましたが、宮光園を管理する甲州市文化財課が学芸員を探していたところ、勝沼図書館に資格を持っている人間がいるという情報が入り、私に声をかけてくれ

たそうです。

文化財に関する仕事に就くことは難しいということは事実ですが、決して夢のような話ではありません。運も必要な要素ですが、自身がこうありたいという考えを口にすることで、それを引き寄せることもできると思います。現在、文化財に関する仕事に就きたいと考えている学生さんの参考になれば幸いです。

（甲州市教育委員会　生涯学習課文化財担当）

編集スタッフレポート

今号も「編集スタッフレポート」として『けやき』の編集実務に携わっているスタッフが執筆した学芸員課程に関するレポートを掲載します。

令和４年度　学芸員課程業務を担当して

坂　本　　圭

各館園関係者の皆様におかれましては、昨年度に続きコロナ禍において、本学実習生における館園実習をお引き受けいただき、ご指導いただきまして厚く御礼申し上げます。引き続き実施期間を短縮した実習などもございましたが、様々なカリキュラムでご指導いただきましたこと、心より感謝申し上げます。日々変化する感染状況に対応しながら、実習生の指導もお願いすることは、大変なご負担をおかけしたことと存じます。実習生自身がそのありがたみを噛み締め、今後の学びに活かしてもらいたいと思います。

今年度の実習生は、２年次は完全オンライン授業、３年次は対面を基本としたオンライン同時配信授業を経験し、社会情勢や大学の方針に左右されながらも、館園実習に向けて学修を積み重ねてまいりました。様々な制約や条件がある中で学び続けたことにより、教育の本質的部分に気付いた学生もいたのではないかと思います。令和２年度から続いていたコロナウイルス感染予防に配慮した授業運営も、今年度はすべて対面授業に移行しました。キャンパス内が少しずつにぎやかになるにつれ、学生生活も含め徐々にコロナ禍前に戻りつつあるように感じて、うれしく思っております。ウィズコロナと言われるように、決してなくならないものではありますが、感染対策には十分配慮しながらも、のびのびと実習ができる日が戻ることを願うばかりです。

最後になりますが、公務ご多忙の折、本学学生に貴重な体験をさせてくださったこと、重ねて御礼申し上げます。

今後とも本学学芸員課程へのご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

（教務部　学芸員課程担当）

受 贈 ・ 購 入 図 書 目 録

（2022年１月～12月受入・整理）

【博物館関係】

いいづな歴史ふれあい館
『いいづな歴史ふれあい館だより』第17号
『飯綱町の自然・歴史・文化』いいづな歴史館紀要第9号

大館市郷土博物館
『大館市内遺跡詳細分布調査報告書（6)』大館市文化財調査報告書第19集

鹿児島県歴史・美術センター黎明館
『黎明』vol.39.№4

公益財団法人東京文化会館
『東京文化会館アニュアルレポート2021』

高知城歴史博物館
『JOHAKU NEWS』vol.17-19

豊島区雑司が谷旧宣教使館
『雑司が谷旧宣教使館だより』第68号

豊島区立郷土資料館
『生活と文化』第31号
『かたりべ』№140-№142
『薬と祈りの処方箋』

豊島区立鈴木信太郎記念館
『鈴木信太郎記念館だより』第5号-第6号

野田市郷土博物館
『野田市郷土博物館　市民会館　年報・紀要』第14号

飯能市立博物館
『飯能市立博物館館報　きっとすレポート』第3号

平塚市博物館
『平塚市博物館年報』第45号

船橋市飛ノ台史跡公園博物館
『飛ノ台史跡公園博物館紀要』18号
『船橋のいちばん暑かった時　縄文時代前期の地球温暖化』
『第20回縄文コンテンポラリー展 in 船橋　とびはくにもぐろう！～縄文時代と対話する～』

港区立郷土資料館
『港区立郷土資料館館報』2
『歴史館ニュース』11

八千代市立郷土博物館
『八千代市立郷土博物館館報』№28

【大学関係】

愛知淑徳大学司書・学芸員課程委員会
『ラブレミューズへのみち』第10号

桜美林大学 教職センター 博物館学芸員課程
『博物館学芸員課程年報』23号

大阪大谷大学博物館学芸員課程
『大阪大谷大学博物館学芸員課程年報』vol.22

岡山商科大学学芸員課程
『博物館実習報告』2021年度

帯広大谷短期大学紀要委員会
『帯広大谷短期大学紀要』第59号

帯広大谷短期大学地域連携推進センター紀要編集委員会
『帯広大谷短期大学地域連携推進センター紀要』第9号

学習院大学学芸員課程委員会
『学芸員』№26

神奈川大学学芸員課程部会
『神奈川大学学芸員課程年報』第11号

國學院大學博物館学研究室
『國學院大學博物館紀要』第46輯
『國學院大學博物館学研究』第1号

至学館大学大学院・至学館大学・至学館大学短期大学部
『至学館大学研究紀要』56

白梅学園大学・短期大学
『白梅学園大学・短期大学紀要』№58

成城大学教務部学芸員課程担当
『博物館実習報告』第8号
『成城大学学芸員課程ニュースレター』vol.6

玉川大学教育博物館
『玉川大学教育博物館　館報』第20号
『玉川大学教育博物館　紀要』第19号
『博物館ニュース　SHU』№58-№59

筑紫女学園大学　文学部　博物館学芸員課程
『学芸員の星たち』2021年度

鶴見大学博物館学芸員課程
『鶴見大学博物館学芸員課程年報』第3号

帝塚山大学考古学研究所
『帝塚山大学考古学研究所研究報告』ＸＸⅣ

帝塚山大学附属博物館
『帝塚山大学附属博物館報』ＸⅦ
『古瓦との出会いⅢ～百済の古瓦～』帝塚山大学附属博物館特別展パンフレット第38号

天理大学文学部教授桑原久男
『文化遺産と大学キャンパスⅢ　2020年度天理大学学術･研究･教育活動助成研究成果報告』

東京女子大学『教職・学芸員課程研究』編集委員会
『教職・学芸員課程研究』3

同志社大学博物館学芸員課程
『博物館学年報』第53号

東北大学総合学術博物館
『Omnivisens』vol.66

長崎純心大学博物館
『純心　博物館だより』№40

日本女子大学
『学芸員への誘い　日本女子大学博物館学芸員課程年報』20

花園大学博物館学芸員課程
『花園大学博物館学芸員課程報告』第3号

花園大学歴史博物館
『大槻幹郎先生寄贈図書目録（一）』花園大学歴史博物館資料叢書第5輯

佛教大学宗教文化ミュージアム
『竹田聴洲が残した昭和の六斎念仏』（藤原圭）

法政大学資格課程
『法政大学資格課程年報』vol.11

武蔵大学学芸員課程
『武蔵大学学芸員課程報告』35

明治大学学芸員養成課程
『MUSEOLOGIST』37
『MUSEUM STUDY』33

【その他】
財団法人日本博物館協会
『博物館研究』vol.57 №1-№12

全国大学博物館学講座協議会
『全博協会報』59
『全博協研究紀要』第24号

令和４年度 学芸員課程開講科目一覧

【必修科目】

法定科目	単位	科目名	教員名	履修年次	必修単位	備考
生涯学習概論	4	生涯学習概論	前田　寿紀	2～3年次	4	
博物館概論	2	博物館概論	伊藤　宏之		2	
博物館資料論	2	博物館資料論	伊藤　宏之		2	
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	神庭　信幸		2	
博物館展示論	2	博物館展示論	矢野　賀一		2	
博物館経営論	2	博物館経営論	田尾　誠敏		2	
博物館実習	4	博物館実習Ⅰ－Ａ（文化財の取り扱い）	髙梨　真行	3年次	1選択必修	
		博物館実習Ⅰ－Ａ（文化財の取り扱い）	中川　仁喜			
		博物館実習Ⅰ－Ａ（文化財の取り扱い）	中村　洋子			
		博物館実習Ⅰ－Ａ（展示デザイン）	矢野　賀一			
		博物館実習Ⅰ－Ａ（ＣＧ入門）	山下裕一朗			
		博物館実習Ⅰ－Ａ（民俗）	塩入　亮乗			
		博物館実習Ⅰ－Ａ（表具実習）	安藤　清			
		博物館実習Ⅰ－Ｂ（文化財の取り扱い）	田尾　誠敏	3年次	1選択必修	「博物館実習Ⅰ－Ｂ」は「博物館実習Ⅰ－Ａ」を単位修得していなければ履修できない。
		博物館実習Ⅰ－Ｂ（文化財の取り扱い）	中川　仁喜			
		博物館実習Ⅰ－Ｂ（文化財の取り扱い）	中村　洋子			
		博物館実習Ⅰ－Ｂ（教育普及実習）	塚田　良道			
		博物館実習Ⅰ－Ｂ（考古資料調査）	千葉　毅			
		博物館実習Ⅰ－Ｂ（展示デザイン）	矢野　賀一			
		博物館実習Ⅰ－Ｂ（表具実習）	安藤　清			
		博物館実習Ⅱ（先修制）	伊藤　宏之 加島　勝 遠山　元浩 松本　洋幸	4年次	2	①「博物館実習Ⅱ」は、「博物館情報・メディア論」・「博物館教育論」を除く必修科目の単位を修得していなければ履修できない。②「博物館実習Ⅱ」が履修できなければ、館園実習に行くことはできない。
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	花坂　哲	2～4年次	2	
博物館教育論	2	博物館教育論	髙梨　真行		2	

【選択必修科目】

法定科目	科目名	教員名	履修年次	必修単位	備考
文　化　史	日本の歴史書	榎本　淳一	2～4年次	2分野以上から、 2科目4単位以上	
	仏教と歴史	櫛田　良道 中川　仁喜			
	中国の歴史書	新藤　篤史			
	東洋文化史	小林　伸二			
	仏教美術研究Ａ	松本　知己			
	仏教美術研究Ｂ	藤田　祐俊			
	日本文化総論	安原　眞琴			
	日本文学総論	渡辺麻里子			
美　術　史	美術工芸史概説	加島　勝			
考　古　学	考古学概説	御堂島　正			
民　俗　学	民俗学概論	塩入　亮乗			
	伝統民俗を活かす教育	髙田　彩			
自然科学史	歴史地理学	村岸　純			

令和４年度館園実習　実習生一覧

学部・学科・コース	氏　名	実習館名
大学 人間学部 教育人間学科　教育・学校経営	上　本　　葵	久喜市立郷土資料館
大学 文学部 人文学科　哲学・宗教	江　原　知　華	茨城県立歴史館
大学 文学部 人文学科　哲学・宗教	内　藤　亜　美	千葉県立房総のむら
大学 文学部 人文学科　哲学・宗教	永　島　史　奈	遊行寺宝物館
大学 文学部 人文学科　哲学・宗教	吉　野　真　央	茂原市立美術館・郷土資料館
大学 文学部 人文学科　国際文化	柴　田　彩　夏	神奈川県立近代美術館
大学 文学部 歴史学科　日本史	青　山　大　悟	山梨県立博物館
大学 文学部 歴史学科　日本史	浅　利　美渚子	船橋市郷土資料館
大学 文学部 歴史学科　日本史	石　川　英　明	土浦市立博物館、上高津貝塚ふるさと歴史の広場
大学 文学部 歴史学科　日本史	伊　藤　春　智	遊行寺宝物館
大学 文学部 歴史学科　日本史	猪　俣　大　志	葛飾区郷土と天文の博物館
大学 文学部 歴史学科　日本史	大　木　颯　介	江東区中川船番所資料館
大学 文学部 歴史学科　日本史	小　田　淳　朗	さいたま市立博物館
大学 文学部 歴史学科　日本史	勝　浦　理　彩	観蔵院曼荼羅美術館
大学 文学部 歴史学科　日本史	川　名　美　緒	平等院ミュージアム鳳翔館
大学 文学部 歴史学科　日本史	久保田　夏　紀	遊行寺宝物館
大学 文学部 歴史学科　日本史	後　藤　啓　太	埼玉県立歴史と民俗の博物館
大学 文学部 歴史学科　日本史	小　林　厚　紀	旧坂東家住宅　見沼くらしっく館
大学 文学部 歴史学科　日本史	駒　場　弥　夢	栃木県立博物館
大学 文学部 歴史学科　日本史	佐　藤　悠　成	武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館
大学 文学部 歴史学科　日本史	篠　原　聖　奈	松戸市立博物館
大学 文学部 歴史学科　日本史	杉　山　未　峰	沼津市明治史料館
大学 文学部 歴史学科　日本史	鈴　木　創　大	北区飛鳥山博物館
大学 文学部 歴史学科　日本史	鈴　木　美　咲	船橋市飛ノ台史跡公園博物館
大学 文学部 歴史学科　日本史	諏　訪　絢　香	山ノ内町立志賀高原ロマン美術館
大学 文学部 歴史学科　日本史	曾我尾　　渉	土浦市立博物館、上高津貝塚ふるさと歴史の広場
大学 文学部 歴史学科　日本史	舘　野　隼　弥	栃木県立博物館
大学 文学部 歴史学科　日本史	田　中　景　子	箱根町立郷土資料館
大学 文学部 歴史学科　日本史	田　中　秀　明	日光山輪王寺宝物殿
大学 文学部 歴史学科　日本史	藤　代　嵩　也	日野市郷土資料館
大学 文学部 歴史学科　日本史	光　吉　佑　紀	清瀬市郷土博物館
大学 文学部 歴史学科　日本史	村　田　和　駿	八潮市立資料館

学部・学科・コース	氏　名	実習館名
大学 文学部 歴史学科　日本史	八重樫　莉　音	渋谷区立松濤美術館
大学 文学部 歴史学科　日本史	山　﨑　大　輝	八潮市立資料館
大学 文学部 歴史学科　日本史	山　中　光太郎	市立市川歴史博物館
大学 文学部 歴史学科　日本史	山　村　　楓	栃木県立博物館
大学 文学部 歴史学科　日本史	横　戸　　玄	遊行寺宝物館
大学 文学部 歴史学科　東洋史	權　田　海　斗	日光山輪王寺宝物殿
大学 文学部 歴史学科　東洋史	柴　田　真　希	中京大学スポーツミュージアム
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	青　沼　純　矢	上里町立郷土資料館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	芦　川　昇　瑚	平塚市博物館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	雨宮　奈央佳	千葉市立加曽利貝塚博物館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	宇都木　梨　子	日光山輪王寺宝物殿
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	大　吉　榛　奈	埼玉県立さきたま史跡の博物館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	大日方　悠　人	相模原市立博物館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	葛　西　祐　衣	日本民藝館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	川　島　希　美	群馬県立歴史博物館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	北　村　　隆	市立市川考古博物館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	栗　原　七　海	東村山ふるさと歴史館、八国山たいけんの里
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	小　林　蕗　乃	日光山輪王寺宝物殿
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	財　津　裕　希	日立市郷土博物館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	齋　藤　里　奈	草加市立歴史民俗資料館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	島　村　聡　美	埼玉県立歴史と民俗の博物館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	清　水　悠利加	天理大学附属天理参考館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	末　國　結　衣	富士見市立水子貝塚資料館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	髙　木　　瞳	国立科学博物館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	髙　野　真　由	日光山輪王寺宝物殿
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	髙　橋　万梨愛	船橋市飛ノ台史跡公園博物館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	髙　橋　未　羽	東京都江戸東京博物館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	田　中　七　海	観蔵院曼荼羅美術館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	中　村　聡　美	埼玉県立さきたま史跡の博物館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	野　口　大　樹	栃木県立博物館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	萩　原　彩　紀	江東区芭蕉記念館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	平　野　若　菜	観蔵院曼荼羅美術館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	藤　井　諒　子	土浦市立博物館、上高津貝塚ふるさと歴史の広場
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	星　野　　楓	埼玉県立歴史と民俗の博物館

学部・学科・コース	氏　名	実習館名
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	堀　越　彩　奈	成田山霊光館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	吉　田　　哲	茨城県立歴史館
大学 文学部 歴史学科　文化財・考古学	吉　田　　京	神奈川県立歴史博物館
大学 仏教学部 仏教学科　仏教学	遠　藤　健　太	杉並区立郷土博物館
大学 仏教学部 仏教学科　仏教学	田　中　　颯	成田山霊光館
大学 仏教学部 仏教学科　仏教学	西　脇　小　笑	観蔵院曼荼羅美術館
大学 仏教学部 仏教学科　国際教養	岩　元　　暖	橿原市昆虫館
大学 仏教学部 仏教学科　国際教養	小板橋　郁　美	総本山長谷寺宗宝蔵
大学 表現学部 表現文化学科　クリエイティブ	中　村　絵美理	茂原市立美術館・郷土資料館
大学院 文学研究科 史学専攻 史学コース 修士	井　口　喜　景	群馬県立歴史博物館
科目等履修生	徳　重　陽　子	一般財団法人　進化生物学研究所

編集後記

□大正大学学芸員課程年報『けやき』27号を発刊いたしました。今年度も数多くの博物館、美術館、寺院において、学芸員実習をおこなわせていただきました。お忙しい中、お引き受けいただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

□本号では巻頭言に、本学学長補佐の小林伸二先生より「博物館放浪記」と題して、様々な博物館の実物を見学することの良さや学芸員との体験談についてご執筆いただきました。また、博物館学芸員課程の授業を担当されている歴史学科の伊藤宏之先生からは「博物館実習Ⅱを担当して」と題して、受講生に常に伝えていることについてご執筆いただきました。さらに今年度は、本学歴史学科卒業生で、甲州市教育委員会に勤められている髙野愛氏より「文化財に関わる仕事に就くということ」と題して、現在の職種に至るまでの経験や、どのような心構えを持っていたかについてご執筆いただきました。ご執筆いただいた先生方には深くお礼申し上げます。

□令和４年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、行動制限が緩和されるようになり、少しずつですが社会が動き始めるようになりました。実習の授業においても完全対面形式で実施され、感染に注意しながらではありますが、実習用具を用いて授業が行われました。館園実習については、完全にコロナ禍前のようにはいかないながらも、博物館、美術館、寺院の関係者の方々にはご尽力を賜り、多くの学生が実習を受けることができました。これまで以上に多種多様な状況や環境の中において実習を体験できたことは、学生にとって大変実りのあるものになったことと思います。

最後になりましたが、本号の発行に携わっていただいた多くの皆様にお礼申し上げます。

（教務部歴史学科　大澤理絵）

編集担当　教務部教務課　坂本　圭
教務部歴史学科　大澤理絵・風間　伶・
谷橋啓太・富樫紀子

けやき　大正大学学芸員課程年報　第27号（令和４年度）

発行日　令和５(2023)年３月31日
発　行　大正大学教務課学芸員課程
〒170-8470　東京都豊島区西巣鴨３－20－１
☎03（3918）7311（代表）
印　刷　㈲立花印刷